

新潟県立歴史博物館評価委員会

令和6年度における
館の自己点検に対する
二次点検評価報告書

令和7年8月

活動評価表（総括）

博物館の基本理念

- 県民の営みの証である歴史資料を記録・整理・保存し、新たな歴史像*を県民とともに創造していきます。
- 人々と連携しながら、現在から未来へ、地域から世界へと県の価値を発信していくことを使命とします。

こうした活動を通して

『より県民に愛され、利用され、“にぎわいのある博物館”』を実現します。

※「新たな歴史像の創造」

博物館の活動を通じて再発見される新潟県の価値や魅力が、新潟県の歴史についての新鮮なイメージとして、県民の皆さん一人一人の中で実を結んでいくこと

I 博物館による自己点検と評価

取組実績

- [評価指標] 利用者数 (単位：人)

	令和5年度		令和6年度	
	実績		目標	実績
① 利用者総数	(単年) 63,070		増加させる	54,034
② 観覧者数	(単年) 50,423			40,099

*観覧者数の集計方法変更

令和2年度から6年6月まで企画展観覧者が常設展観覧料を支払い常設展も観覧→2名で計上

- [評価指標] 満足度

	令和5年度		令和6年度	
	実績		目標	実績
① 来館者満足度	97%		維持・向上させる	97%
② 企画展	93%			94%
③ 講座等 講座・講演会 体験コーナー	95%	100%		97%
	100%			99%
④ 来館者対応	100%		99%	

(1) 収集保管 収蔵資料データ整理の推進、収蔵庫の良好な保存環境の継続

(2) 展示

[常設展] 展示環境の維持、ワンポイント解説ゲスト解説の実施

[企画展] 春「動物たちの浮世絵」 夏「大・佐渡島」

[テーマ展] 秋「珠玉の国新潟」 冬「生活の証 抛品が民具である」

(3) 調査研究 外部研究費 11 件（うち研究分担者及び協力者としての取得 6 件）

	<p>学会発表等 18 件 (R5 16 件) 論文等執筆 64 件 (R5 57 件)</p> <p>(4) 教育普及 館内講座・出前講座の継続、体験活動の新プログラム 3 件導入、教育機関への周知活動の継続、館内ボランティアの人員増</p> <p>(5) 連携 地域史研究ネットワーク、友の会事業の着実な実施など</p> <p>(6) 情報発信 新聞雑誌等への露出増加、ホームページ及び SNS (Facebook、X、Instagram) による情報発信の継続</p> <p>(7) 管理運営 博物館運営方針に基づいた検証・評価の実施</p>																																															
分析	<p>(1) 観覧者数 観覧者数が大幅減となっているが、令和 6 年 6 月からの企画展観覧者の常設展観覧料免除に伴い集計方法が変更となったこと、昨年度は夏季企画展（上杉景勝展）が好評だったことが大きい。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">観覧者</td> <td>常設展</td> <td>30,904</td> <td>34,643</td> <td>26,710</td> </tr> <tr> <td>企画展</td> <td>8,932</td> <td>15,780</td> <td>13,389</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>39,836</td> <td>50,423</td> <td>40,099</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">入場者</td> <td>常設展</td> <td>30,712</td> <td>34,640</td> <td>31,134</td> </tr> <tr> <td>企画展</td> <td>8,867</td> <td>15,728</td> <td>13,023</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>39,579</td> <td>50,368</td> <td>44,157</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 学校団体来館者数 県内学校来館者数が減少する一方、県外学校来館者数は増加。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R5</th> <th>R6</th> <th>R6-R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>県内</td> <td>4,684</td> <td>4,333</td> <td>△ 351</td> </tr> <tr> <td>県外</td> <td>3,206</td> <td>3,579</td> <td>373</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>7,890</td> <td>7,912</td> <td>22</td> </tr> </tbody> </table> <p>(3) 満足度の評価指標は各項目とも昨年度並みを維持している。 (4) 学会発表や論文執筆件数等の増、SNS フォロワーの着実な増加などが成果としてあげられる。</p>			R4	R5	R6	観覧者	常設展	30,904	34,643	26,710	企画展	8,932	15,780	13,389	合計	39,836	50,423	40,099	入場者	常設展	30,712	34,640	31,134	企画展	8,867	15,728	13,023	合計	39,579	50,368	44,157		R5	R6	R6-R5	県内	4,684	4,333	△ 351	県外	3,206	3,579	373	合計	7,890	7,912	22
		R4	R5	R6																																												
観覧者	常設展	30,904	34,643	26,710																																												
	企画展	8,932	15,780	13,389																																												
	合計	39,836	50,423	40,099																																												
入場者	常設展	30,712	34,640	31,134																																												
	企画展	8,867	15,728	13,023																																												
	合計	39,579	50,368	44,157																																												
	R5	R6	R6-R5																																													
県内	4,684	4,333	△ 351																																													
県外	3,206	3,579	373																																													
合計	7,890	7,912	22																																													
課題	<p>(1) 施設・設備の老朽化への対応（計画的な施設・設備等の更新及び補修の実施）</p> <p>(2) 調査研究活動の充実と県民還元の推進</p> <p>(3) 支援団体・協力者との一層の連携強化</p> <p>(4) 具体的な集客に向けた広報等への新たな取組</p>																																															
取組に対する自己評価	<p>評価できる <input checked="" type="checkbox"/> やや評価できる <input type="checkbox"/> やや評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない <input type="checkbox"/> 判断保留 <input type="checkbox"/></p>																																															
II 評価委員会による検証・評価																																																
取組に対する全体的評価	<p>評価できる <input checked="" type="checkbox"/> やや評価できる <input type="checkbox"/> やや評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない <input type="checkbox"/> 判断保留 <input type="checkbox"/></p>																																															
評価のコメント及び今後の課題方向性等の提言	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者総数・観覧者数が大幅に減少したことは、令和 5 年度の夏季企画展との比較や集計方法の変更に伴うものがあったことを考慮する必要もある。しかし、本館の基本理念にも掲げられている「新たな歴史像の県民との創造」の実現のために、引き続き県民一人ひとりが本県の歴史に触れあう機会の提供・推進に取り組むことが肝要である。 ・上記とも関連して、学校教育関係の本館利用に際しては、学校単位で測る 																																															

	<p>よりも児童・生徒単位に着目して測ることが、より本館の目的の評価に資するものと考える。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 施設・設備の老朽化への対応は、計画的な更新や補修を実施することはもとより、厳しい本県財政状況のもとでは、例えばクラウドファンディングの実施など新しい手法による対応も検討すべきと考える。・ 人員・財源ともに厳しい状況のもとで新たな事業展開を図ろうとする場合、すべて従前と同じ行動を前提としていれば、困難である。社会経済の変化にも対応しながら本県の価値を発信し続けるためには、引き続き館内外の関係者一人ひとりの自覚と思考が求められる。
--	--

活 動 評 価 表

機能・取組分野	収集・保管	学芸課
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・本県の歴史を明らかにするために欠かすことのできない資料の収集・整理に努めるとともに、そのデータ化を推し進める。 ・良好な資料保存環境を維持する。 	
主な実現方策	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の収集の継続と収集資料の整理を推進する。 ・IPMによる環境管理を継続する。 	

I 博物館による自己点検と評価

取組実績	○ [評価指標] 収蔵資料目録の刊行準備												
	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>令和5年度</td> <td colspan="2">令和6年度</td> <td>令和9年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td>目標</td> </tr> <tr> <td>1目録</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1目録</td> </tr> </table>	令和5年度	令和6年度		令和9年度	実績	目標	実績	目標	1目録	1	1	1目録
	令和5年度	令和6年度		令和9年度									
	実績	目標	実績	目標									
	1目録	1	1	1目録									
	○ [評価指標] データベース公開数(更新を含む)												
	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>令和5年度</td> <td colspan="2">令和6年度</td> <td>令和9年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td>目標</td> </tr> <tr> <td>1,889件 (うち、新規0件)</td> <td>300件以上</td> <td>37件 (うち、新規21件)</td> <td>300件以上</td> </tr> </table>	令和5年度	令和6年度		令和9年度	実績	目標	実績	目標	1,889件 (うち、新規0件)	300件以上	37件 (うち、新規21件)	300件以上
	令和5年度	令和6年度		令和9年度									
	実績	目標	実績	目標									
	1,889件 (うち、新規0件)	300件以上	37件 (うち、新規21件)	300件以上									
※令和5年度からは新規公開に加えて既公開データの内容更新もカウントしている。													
収集													
<ul style="list-style-type: none"> (1)資料寄贈 24件 (2)収蔵資料破損 なし (3)収蔵品整理作業 継続 (4)全登録資料数 48,405件 (R6年度増加分=615件)、うち公開数 37,308件 ※公開可能なデータはほぼ公開されている。 													
保管													
<ul style="list-style-type: none"> (1)文化財害虫モニタリング測定 月1回 (2)殺・防虫消毒 展示室殺虫消毒1回、館内殺虫消毒1回、館外防虫施工2回、 燻蒸室内燻蒸 3回 (3)収蔵庫温湿度管理 通年 (4)空気環境管理 カビ等浮遊菌調査3回、イオンクロマトグラフ空気物質測定1回 (5)収蔵庫定期清掃及び資料点検 1回 (6)収蔵庫定期点検 月1回 (7)IPM研修 5回 (8)保管環境研修会参加 4回 ・文化財虫菌害研究所 文化財 IPM コーディネータ資格取得のための講習会参加 													

	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財虫菌害研究所 文化財防虫防菌処理実務講習会 参加 ・文化財活用センター 博物館・美術館等保存担当学芸員研修（基礎コース）参加 ・文化財活用センター 第9回保存環境調査・管理に関する講習会 参加
分析	<p>(1) 継続的な資料の収集と資料整理に努めている。</p> <p>(2) 資料の良好な保存環境の維持に努めている。</p>
課題	<p>(1) 収蔵庫が不足しており、新たな資料の受入れが難しくなっている。</p> <p>(2) 施設の老朽化により、保存環境維持に要する機器故障が頻発している。</p> <p>(3) 文化財くん蒸製剤・殺虫剤の生産中止（2025年3月）による新たな資料保存、保管の取組</p>
取組に対する 自己評価	<input checked="" type="checkbox"/> 評価できる やや評価できる やや評価できない 評価できない 判断保留
II 評価委員会による検証・評価	
取組に対する 全体的評価	<input checked="" type="checkbox"/> 評価できる やや評価できる やや評価できない 評価できない 判断保留
評価のコメント 及び今後の課題 方向性等の提言	<ul style="list-style-type: none"> ・評価指標2項目のうち1項目「データベース公開数」が目標を達成していない。しかし、所蔵資料の77%を公開しており、一般公開にそぐわない歴史資料もあることを考慮すると、すでに一定の実績を積み重ねているといえる。今後も資料の公開を積極的に行いつつ、データの整理と更新も継続してほしい。 ・良好な保管環境を維持するため、日常的に点検、IPM（Integrated Pest Management 総合的有害生物管理）研修等、様々な活動を行っている。また、外部の保管環境研修会に参加し、職員の知識向上に努めていることがわかる。今後、文化財の虫カビ害被害のガス燻蒸処理が出来なくなり、IPMの重要性がさらに増すと聞く。館全体で保管についてのリテラシーをさらに高め、IPMの実践館として県内博物館をけん引してほしい。

活動評価表

機能・取組分野	展示—常設展示	学芸課
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・設備・機器・資料の適切な管理に努め、良好な見学環境を維持する。 ・常設展示の十分な活用を推し進める。 	
主な実現方策	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の適切な維持管理と定期的な資料更新を継続する。 ・より柔軟な展示と活用方法の工夫に努める。 	

I 博物館による自己点検と評価																
取組実績	○ [評価指標] 新規展示試行回数	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>令和5年度</td> <td colspan="2">令和6年度</td> <td>令和9年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td>目標</td> </tr> <tr> <td>1件</td> <td>1件</td> <td>2件</td> <td>1件以上</td> </tr> </table>			令和5年度	令和6年度		令和9年度	実績	目標	実績	目標	1件	1件	2件	1件以上
	令和5年度	令和6年度		令和9年度												
	実績	目標	実績	目標												
	1件	1件	2件	1件以上												
	○ [評価指標] ワンポイント解説	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>令和5年度</td> <td colspan="2">令和6年度</td> <td>令和9年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td>目標</td> </tr> <tr> <td>665人</td> <td>500人</td> <td>805人</td> <td>500人</td> </tr> </table>			令和5年度	令和6年度		令和9年度	実績	目標	実績	目標	665人	500人	805人	500人
	令和5年度	令和6年度		令和9年度												
実績	目標	実績	目標													
665人	500人	805人	500人													
<p>(1) 定期資料展示替え 新潟県のあゆみ・雪とくらし・米づくり・縄文文化を探る、それぞれについて4月、10月に実施。</p> <p>(2) 常設展定期点検 隔週（照明・電気の点検、ケース内及びガラス清掃）</p> <p>(3) 常設展の保守点検・補修 2回（展示品・機器の総合点検）</p> <p>(4) 常設展のワンポイント解説 96回、平均参加人数8.4人（R5 90回、7.4人）</p> <p>(5) 新規県新指定文化財を展示 経櫃（寄託）、新潟の衣生活資料</p>																
分析	<p>(1) 設備・機器・資料の適切な管理に努め、良好な展示環境を維持している。</p> <p>(2) 展示解説を通して展示の活用を進め、ワンポイント解説参加者の増加、来館者の満足度向上につながっている。</p>															
課題	<p>(1) 経費削減のため、設備・機器の点検回数に制限がある。</p> <p>(2) 施設設備の老朽化により、理想的な温湿度管理が難しくなっている。</p> <p>(3) 予算化されない中で新規展示を試行している。</p>															
取組に対する自己評価	<input checked="" type="checkbox"/> 評価できる やや評価できる やや評価できない 評価できない 判断保留															
II 評価委員会による検証・評価																
取組に対する全体的評価	<input checked="" type="checkbox"/> 評価できる やや評価できる やや評価できない 評価できない 判断保留															
評価のコメント及び今後の課題方向性等の提言	<ul style="list-style-type: none"> ・ 評価指標となる新規展示試行回数、ワンポイント解説共に、実績は目標値をクリアしている。ワンポイント解説は定期的開催され、テーマ展示の解説も行われ実績が目標を大きく上回った。 ・ 定期的な資料展示の入れ替えや定期点検、保守点検なども継続して適切に行われており、評価できる。 															

- | | |
|--|--|
| | <ul style="list-style-type: none">▪ 展示室照明の LED 化への取り組みも継続されており、厳しい予算の中良好な展示環境の整備が進められていると評価できる。▪ 施設設備の老朽化により、温湿度管理が難しくなっているという現状がある。今は人的な努力で適切に管理作業が行われてはいるが、今後の課題として具体的な対策を検討して欲しい。▪ 目標値のクリア、展示の維持管理、展示の工夫、展示環境の整備などが適切に行われており、全体を通じて評価できる。 |
|--|--|

活 動 評 価 表

機能・取組分野	展示－企画展示	学芸課
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調査研究の反映や収蔵資料の活用によって魅力ある企画展を実施する。 ・ 集客を意識し、県民の関心を反映した企画展示に努める。 	
主な実現方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年4回程度の企画展及びテーマ展示の実施を目標とする。 ・ 入場者の満足度を高める。 	

I 博物館による自己点検と評価

取組実績	○ [評価指標] 企画展示ジャンル数														
	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>令和5年度</td> <td colspan="2">令和6年度</td> <td>令和9年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td>目標</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>3以上</td> <td>3</td> <td>3以上</td> </tr> </table>	令和5年度	令和6年度		令和9年度	実績	目標	実績	目標	3	3以上	3	3以上		
	令和5年度	令和6年度		令和9年度											
	実績	目標	実績	目標											
	3	3以上	3	3以上											
	※歴史・民俗・考古の各ジャンルに関する展示を実施。														
	○ [評価指標] 満足度（企画展のみ）														
	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>令和5年度</td> <td colspan="2">令和6年度</td> <td>令和9年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td>目標</td> </tr> <tr> <td>93%</td> <td>90%</td> <td>94%</td> <td>90%以上</td> </tr> </table>	令和5年度	令和6年度		令和9年度	実績	目標	実績	目標	93%	90%	94%	90%以上		
	令和5年度	令和6年度		令和9年度											
	実績	目標	実績	目標											
93%	90%	94%	90%以上												
※企画展等アンケート回答数（春 201、夏 218、秋 171、冬 42）															
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">(1) 企画展・テーマ展</td> <td style="text-align: right; width: 20%;"><u>観覧者数(実績)</u></td> <td style="text-align: right; width: 20%;"><u>(開催日数)</u></td> </tr> <tr> <td>春企画展 「動物たちの浮世絵」</td> <td style="text-align: right;">6,357 人</td> <td style="text-align: right;">44(日)</td> </tr> <tr> <td>夏企画展 「大・佐渡島」</td> <td style="text-align: right;">7,032 人</td> <td style="text-align: right;">39(日)</td> </tr> <tr> <td>秋テーマ展「珠玉の国新潟」</td> <td style="text-align: right;">4,183 人</td> <td style="text-align: right;">50(日)</td> </tr> <tr> <td>冬テーマ展「生活の証拠品が民具である」</td> <td style="text-align: right;">1,984 人</td> <td style="text-align: right;">38(日)</td> </tr> </table>	(1) 企画展・テーマ展	<u>観覧者数(実績)</u>	<u>(開催日数)</u>	春企画展 「動物たちの浮世絵」	6,357 人	44(日)	夏企画展 「大・佐渡島」	7,032 人	39(日)	秋テーマ展「珠玉の国新潟」	4,183 人	50(日)	冬テーマ展「生活の証拠品が民具である」	1,984 人	38(日)
(1) 企画展・テーマ展	<u>観覧者数(実績)</u>	<u>(開催日数)</u>													
春企画展 「動物たちの浮世絵」	6,357 人	44(日)													
夏企画展 「大・佐渡島」	7,032 人	39(日)													
秋テーマ展「珠玉の国新潟」	4,183 人	50(日)													
冬テーマ展「生活の証拠品が民具である」	1,984 人	38(日)													
<p>(2) 関連講演・講座 参加者（含テーマ展等）</p> <p>講演会（春:なし、夏:61名（上演会 230名）、秋 70名、冬:なし）</p> <p>関連講座（春 71名、夏 88名、秋 60名（2回）、冬 74名）</p>															
<p>(3) 関連イベント等</p> <p>春「動物絵缶バッジ」、「動物絵屏風を作ろう」</p> <p>夏「ミッション中!」「小判を作ろう」、「さき織でコースター作り」</p> <p>秋「縄文時代の大き珠を作ろう」、「まが玉&管玉でネックレス作り」</p> <p style="padding-left: 20px;">「縄文コロコロ体験」</p> <p>冬「雪道具体験」、「アンギンコースター作り」</p>															
<p>(4) 企画展・テーマ展以外の企画展示室実施事業</p> <p>12月 ・新潟県立歴史博物館友の会主催「新潟県中越大震災 20年ーそれでもわが大地を愛し続けるー」</p> <p style="padding-left: 20px;">・「kid's 考古学新聞コンクール全国巡回展」</p>															

	<p>・「キッズ歴史研究作品展」</p> <p>(5)企画展示室稼働日数 201日（開館日305日）</p>
分析	<p>(1)各研究員の調査研究成果を反映させた内容の企画展を実施している。</p> <p>(2)収蔵資料の調査研究成果を活用してテーマ展の内容を工夫している。</p> <p>(3)県民が関心あるテーマを取り入れた展示の企画立案に努めている。</p>
課題	<p>(1)経費不足のため調査研究成果を十二分に反映できない。</p> <p>(2)予算化されない中で収蔵資料の活用を検討しなければならない。</p> <p>(3)県民の関心を考慮した企画立案に努めているが、広報に必要な予算や人的資源が不足しており、集客に苦戦している。</p>
取組に対する 自己評価	<p><input checked="" type="checkbox"/>評価できる やや評価できる やや評価できない 評価できない 判断保留</p>
II 評価委員会による検証・評価	
取組に対する 全体的評価	<p><input checked="" type="checkbox"/>評価できる やや評価できる やや評価できない 評価できない 判断保留</p>
評価のコメント 及び今後の課題 方向性等の提言	<ul style="list-style-type: none"> ・限られた予算の中で企画展2回、テーマ展2回の年4回開催したこと、企画展示ジャンルも「歴史」「民俗」「考古」の3分野となり、目標を達成していること、企画展の満足度も高水準を維持していることを評価したい。 ・令和2年度から開催しているテーマ展示は、館の所蔵品や資料などを活用して、職員の強い意欲で開催していることは評価できるが、資源等が限られていることからいつまで継続できるかの問題もある。 ・今後も厳しい予算や人員配置の状況下ではあるが、広報活動など創意工夫をしながら来館者を増やせる企画展やテーマ展示などの実施を期待する。

活 動 評 価 表

機能・取組分野	調査・研究	学芸課・経営企画課
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・本県の歴史系博物館の拠点として、質の向上を目指す。 ・館活動の根幹である調査研究の成果の県民への還元に努める。 	
主な実現方策	<ul style="list-style-type: none"> ・総合・個別研究費などを有効に活用した研究活動を推進し、その成果を県民に還元する。 ・講座参加者の満足度を高める。 	

I 博物館による自己点検と評価				
取組実績	○ [評価指標] 外部研究費取得件数			
		令和5年度	令和6年度	令和9年度
		実績	目標	実績
		12(7)	6	11(6)
		() 内は研究分担者及び研究協力者分で内数		
	○ [評価指標] 学会発表等件数			
		令和5年度	令和6年度	令和9年度
		実績	目標	実績
		16回	11	18回
	○ [評価指標] 論文等執筆件数			
	令和5年度	令和6年度	令和9年度	
	実績	目標	実績	
	57件	55件	64件	
	<p>(1) 外部研究費 (科学研究費ほか)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学術研究助成基金助成金(研究活動スタート支援)「縄文時代後期土器棺再埋葬に関する考古学と分析科学を融合した研究」など <p>(2) 学会発表等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮尾亨「Image Restorations of Sundial-shaped stones of Oyu Stone Circle Site」 ・岩瀬春奈「歴史と民俗からみる憑物習俗」 など <p>(3) 論文等執筆</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前嶋敏『戦国期地域権力の形成』 ・橋詰潤「小瀬ヶ沢、室谷洞窟と新潟県の縄文文化のはじまり」 など 			
分 析	<p>(1) 本県の歴史系博物館の拠点として、質の向上に努めている。</p> <p>(2) 館活動の根幹である調査研究の成果の県民への還元に努めている。</p>			
課 題	<p>(1) 調査研究にかかる経費の多くを外部資金に依存している。</p> <p>(2) 招待講演や学会発表の件数を増やすことは難しい。</p> <p>(3) 寄稿できるマスコミ媒体が減少している。</p>			

取組に対する 自己評価	<input checked="" type="checkbox"/> 評価できる やや評価できる やや評価できない 評価できない 判断保留
II 評価委員会による検証・評価	
取組に対する 全体的評価	<input checked="" type="checkbox"/> 評価できる やや評価できる やや評価できない 評価できない 判断保留
評価のコメント 及び今後の課題 方向性等の提言	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外部研究費の取得件数は、目標の倍近くに達しており、本館の調査・研究が学術的にも高く評価されていることの証と言える。今後は上記助成以外の外部資金の獲得も視野に幅広い調査・研究の展開を期待する。 ・ 学会発表等件数について、目標値を上回る実績を示しており、また、論文等執筆件数についても、目標値・前年度実績値を上回っている。人員の減少等の環境の中で、これらにおいて大きな成果を示せたことは、研究員の多大な尽力などがあったものと考えられ、大変評価できる。 ・ 本館の調査・研究の目的の一つに「調査研究の成果の県民への還元」があることから、今後はこれらの調査・研究の成果を各種講座や展覧会における図録の作成などを通して還元していくことを期待する。

活 動 評 価 表

機能・取組分野	教育・普及 / 学校教育	経営企画課
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育に一層活用される博物館を目指す。 ・新潟県民としての自覚と誇りを持つ教育に貢献する。 ・館内及び館外活動の充実を図る。 	
主な実現方策	<ul style="list-style-type: none"> ・教育機関への施設利用の周知。 ・体験学習・体験活動の新たなプログラムの開発・導入に努める。 	

I 博物館による自己点検と評価

取組実績	○ [評価指標] 県内小学校利用率	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>令和5年度</td> <td colspan="2">令和6年度</td> <td>令和9年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td>目標</td> </tr> <tr> <td>23%</td> <td>30%</td> <td>23%</td> <td>30%</td> </tr> </table>	令和5年度	令和6年度		令和9年度	実績	目標	実績	目標	23%	30%	23%	30%
	令和5年度	令和6年度		令和9年度										
	実績	目標	実績	目標										
	23%	30%	23%	30%										
	○ [評価指標] 体験活動の新プログラム導入件数	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>令和5年度</td> <td colspan="2">令和6年度</td> <td>令和9年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td>目標</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>1件以上</td> </tr> </table>	令和5年度	令和6年度		令和9年度	実績	目標	実績	目標	2	1	3	1件以上
	令和5年度	令和6年度		令和9年度										
	実績	目標	実績	目標										
	2	1	3	1件以上										
	○ [評価指標] 体験プログラム参加者満足度	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>令和5年度</td> <td colspan="2">令和6年度</td> <td>令和9年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td>目標</td> </tr> <tr> <td>100%</td> <td>90%以上</td> <td>99%</td> <td>90%</td> </tr> </table>	令和5年度	令和6年度		令和9年度	実績	目標	実績	目標	100%	90%以上	99%	90%
	令和5年度	令和6年度		令和9年度										
実績	目標	実績	目標											
100%	90%以上	99%	90%											
(1) 県内小学校来館校数 90校(延べ数) R5 : 89校	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校担当者の話から、運転手不足や燃料の高騰によるバス輸送費の高騰化のため、減少傾向。 													
(2) 体験活動の新規プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・企画展・テーマ展にちなんだ新規オリジナルプログラム「動物絵屏風」「まが玉・管玉づくり」、「雪道具体験」を企画し、実施した。 ・体験活動は、企画展やテーマ展にかかわる内容であり、かつ大人も子供も楽しめる体験活動を企画、実施している。 													
(3) 出前授業の実施 (まが玉づくり、縄文授業など) 15回 536人	<ul style="list-style-type: none"> ・15回の内訳は小学校11回、中学校1回、高等学校2回、特別支援学校1校 ・昨年度(R5)の17回806人(小学校12回、中学校2回、高等学校2回、特別支援学校1回)に比べ減少した。 													
(4) 教育機関への施設利用の周知活動	<ul style="list-style-type: none"> ・県内小・中・高・特別支援学校へ利用案内や各企画展チラシを送付した。 ・また、10月に近隣市町村の学校に啓発チラシを送付した。 													
(5) 学校との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・新潟県教育委員会が行っている高校生インターンシップには、3名の参加があった。 ・中学校の職場体験については、5校からの依頼を受け入れた。(延べ32人) 													

分析	<p>(1) 県内小学校の来館校数は横ばいであった。かわりに県外学校の来館校数が数年で大幅に増加している。(R元年度 15校⇒R6年度 35校) 今後は、県内学校とともに県外学校にもPRをしていくことが来館数の増加につながると考える。</p> <p>(2) 体験活動の満足度は高い水準を維持している。家庭では体験できない歴史博物館ならではの貴重な体験を提供できているからだと考える。</p> <p>(3) 10月に配付した啓発チラシの成果として、11月から3月までの来館校数の合計がR5年度 26校に対し、R6年度は32校と増加した。PRをすることで一定の効果が得られたため、経費削減の中ではあるが、ターゲットを絞ってPRを続けていく必要がある。</p>
課題	<p>(1) バス代高騰化や運転手不足のためバスが手配できないことによる来館数減少</p> <p>(2) 県内学校関係者に対する効果的なPR方法</p> <p>(3) 企画展・常設展にかかわる新規体験活動の開発</p>
取組に対する 自己評価	<p>評価できる <input checked="" type="checkbox"/> やや評価できる <input type="checkbox"/> やや評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない <input type="checkbox"/> 判断保留 <input type="checkbox"/></p>
II 評価委員会による検証・評価	
取組に対する 全体的評価	<p>評価できる <input checked="" type="checkbox"/> やや評価できる <input type="checkbox"/> やや評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない <input type="checkbox"/> 判断保留 <input type="checkbox"/></p>
評価のコメント 及び今後の課題 方向性等の提言	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内小学校 429校のなか 90校の学校団体の利用があった。バス代等の高騰化のなか、令和5年度は89校ということを見ると評価できる。また、県外の学校の来館が昨年度 15校から今年度 35校に増えていることも評価できる。今後も県内、県外を問わず、利用促進の広報活動を展開して欲しい。 ・ 体験活動の新プログラム導入について、目標回数を超えたことは評価できる。また、体験活動の満足度は常に高いことも評価できる。今後も新規のプログラムを開拓するなど、積極的な体験活動を期待する。 ・ 出前授業の依頼が令和5年度の17回 806人に対し、令和6年度は15回 536人と減少したことは残念であった。まが玉づくり、縄文授業といった定番の他に、何か新しい活動の創出を期待する。また、今後も企画展をきっかけにしたテーマでの出前授業を開拓するなど、積極的な取組に挑戦して欲しい。

活 動 評 価 表

機能・取組分野	教育・普及 / 社会教育	経営企画課
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県民の知識・教養を高め、県民が豊かな社会生活を営むための機会や情報を提供する。 ・ 館内・館外での活動の充実を図る。 	
主な実現方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会教育機関との連携に努める。 ・ 館内講座・出前講座を継続する。 ・ ボランティアの受入の推進。 	

I 博物館による自己点検と評価																
取組実績	○ [評価指標] 出前講座の参加者満足度	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <th style="width: 25%;">令和5年度</th> <th colspan="2" style="width: 50%;">令和6年度</th> <th style="width: 25%;">令和9年度</th> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td>目標</td> </tr> <tr> <td>97%</td> <td>90%</td> <td>94%</td> <td>90%以上</td> </tr> </table>			令和5年度	令和6年度		令和9年度	実績	目標	実績	目標	97%	90%	94%	90%以上
	令和5年度	令和6年度		令和9年度												
	実績	目標	実績	目標												
	97%	90%	94%	90%以上												
	○ [評価指標] 館員の講座・講演会の参加者満足度	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <th style="width: 25%;">令和5年度</th> <th colspan="2" style="width: 50%;">令和6年度</th> <th style="width: 25%;">令和9年度</th> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td>目標</td> </tr> <tr> <td>95%</td> <td>90%</td> <td>97%</td> <td>90%以上</td> </tr> </table>			令和5年度	令和6年度		令和9年度	実績	目標	実績	目標	95%	90%	97%	90%以上
	令和5年度	令和6年度		令和9年度												
	実績	目標	実績	目標												
	95%	90%	97%	90%以上												
	○ [評価指標] ボランティアの活動延人数	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <th style="width: 25%;">令和5年度</th> <th colspan="2" style="width: 50%;">令和6年度</th> <th style="width: 25%;">令和9年度</th> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td>目標</td> </tr> <tr> <td>440人</td> <td>300人</td> <td>463人</td> <td>300人以上</td> </tr> </table>			令和5年度	令和6年度		令和9年度	実績	目標	実績	目標	440人	300人	463人	300人以上
	令和5年度	令和6年度		令和9年度												
実績	目標	実績	目標													
440人	300人	463人	300人以上													
<p>(1) 出前講座 県内12市町村からの要請で31回実施、参加者674名 ・ R5年度：12市町村21回600人</p> <p>(2) 館内講座 24講座を実施、参加者1,078名 ・ R5年度：23講座862名</p> <p>(3) ボランティア登録者数 39名 ・ R5年度は34名</p> <p>(4) ボランティア活動 ・ 資料整理、講座の受付、広報活動、体験コーナー補助及び体験メニュー開発と運営への参画</p> <p>(5) ボランティア増加の取組 ・ ボランティア参加者の個性や興味関心に合わせたボランティア活動の推進</p>																
分 析	(1) 出前講座、館内講座の満足度は、どちらも高い水準を維持している。学芸員の研究の成果、プレゼンテーション能力の高いためだと考える。															
	(2) ボランティア活動は、通常の活動に加えて、歴史資料整理等、新たな活動もあり、活発に行われている。しかし、参加者が一部の方に固定化されつつある。															

	(3) 中学生ボランティアは2名の応募があり、数回活動を行ったが、積極的な活動とはならなかった。今後は、中学生ボランティアの取組意義も含め、活動内容を工夫していく必要がある。
課題	(1) 出前講座は、旅費先方負担による遠方地域の申し込み団体の減少が懸念される。館内講座は、顧客の固定化が見られるため、新しい顧客獲得の取り組みが必要。 (2) ボランティア参加者の固定化 (3) 中学生ボランティアの在り方
取組に対する 自己評価	<input checked="" type="checkbox"/> 評価できる やや評価できる やや評価できない 評価できない 判断保留
II 評価委員会による検証・評価	
取組に対する 全体的評価	<input checked="" type="checkbox"/> 評価できる やや評価できる やや評価できない 評価できない 判断保留
評価のコメント 及び今後の課題 方向性等の提言	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出前講座については、令和5年度の21回600人に対し、令和6年度の31回674人は評価できる。また、満足度94%と高い数値を出していることも評価できる。今後も市町村に積極的に広報を重ね、特に来館が困難な地域、長岡市から離れた地域での社会教育を推進することを期待する。 ・ 館内講座については、令和5年度の23回826人に対し、令和6年度は24回1,078人と増加したことは評価できる。満足度に関しても97%という高水準であり評価できる。 ・ ボランティア活動延べ人数に関しては、令和5年度の440人に対し、令和6年度の463人は評価できる。参加者が固定化されないよう、内容については、案内解説や資料整理・体験メニュー開発等、様々なニーズに対応できるように、活動の幅を広げることを期待する。

活 動 評 価 表

機能・取組分野	連 携	学芸課・経営企画課
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・県内各地の歴史・文化的価値の再発見と活用を支援し、地域づくりに貢献する。 ・幅広く近隣施設や団体とのネットワークを強化する。 	
主な実現方策	<ul style="list-style-type: none"> ・新潟県の中核機関として、地域史研究や資料保存活動を推進する。 ・各種団体との事業共催等による連携を模索する。 	

I 博物館による自己点検と評価				
取組実績	○	〔評価指標〕 地域史研究ネットワーク事業数		
		令和5年度	令和6年度	令和9年度
		実績	目標	実績
		1件	2件	4件
			目標	2件
	○	〔評価指標〕 地域団体活動への参画件数		
		令和5年度	令和6年度	令和9年度
		実績	目標	実績
		10件	15件	15件
			目標	15件
学術面の連携				
(1) 地域史研究ネットワーク				
<ul style="list-style-type: none"> ・事業として IPM 研修の実施。（県内各機関に研修への参加を周知） この他、定期的に以下の研究情報提供を行っている。 ・新潟県地域史研究ネットワークニュースの発行（月1回） ・研究紀要に新潟県関連の文献目録を掲載（年1回） ・「れきはく通信」（デジタル版）の発行（月1回） 				
(2) 移動展 1件 高校生アカデミックインターンシップ研修成果展				
(3) 展示協力 4件 山本五十六記念館など				
(4) 研究協力 16件 学会役員、資料調査など				
(5) 高等教育機関講師派遣 18件（新潟大学・長岡技術科学大学・長岡造形大学・新潟産業大学・長岡崇徳大学・長岡大学・新潟薬科大学）				
(6) 博物館実習受け入れ 9名				
地域づくりに向けた連携				
(1) 新潟県立歴史博物館友の会				
<ul style="list-style-type: none"> ・友の会主催展覧会「新潟県中越大震災20年—それでもわが大地を愛し続ける—」（12月） ・映画上映会「グリーン・ライ エコの嘘」（2月8日） 				
(2) サイノカミ				
<ul style="list-style-type: none"> ・関原町サイノカミ有志の会と協働して、平成12年度(2000年)から毎年1月に伝統的な民俗行事「サイノカミ」を実施している。 				
(3) 県内各種イベントでの体験ワークショップ				
<ul style="list-style-type: none"> ・長岡まつり「観光ふれあい広場」投扇興（8月2日） 				

	<p>(4)その他の関係団体等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・信濃川火焰街道連携協議会、kid's 考古学研究所（巡回展・作品展）、福島しあわせ運べるように合唱団、表千家われもこう、新潟県教育委員会（高校生アカデミック・インターンシップ研修）、フラワースタンプラリー（新潟市等7団体）、真明座（夏季企画展関連イベント）、新潟県高等学校文化連盟新聞部、国営越後丘陵公園（リレーマラソン）、関原地区商工会（ミニツアー）、山通コミュニティセンター <p>(5)リピーター割引の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・馬高縄文館、近代美術館、雪国植物園、越後丘陵公園など近隣施設や万代島美術館、自然科学館などの県内美術館博物館の半券を提示することで当館の企画展観覧料を2割引とし、連携している。
分析	<p>(1) 県内の歴史研究の牽引役としてセンター的な役割を担っている。</p> <p>(2) 既存の取組の充実とともに、「れきはく通信」の発行など新たな連携の強化にも積極的に取り組んだ。</p> <p>(3) コロナ禍以降、協働を控えていた団体との事業が復活するなどして地域団体活動への参画件数が増加した。</p>
課題	<p>(1) 協働結果について相互に情報交換を行い、良質な協働の継続及び内容の発展に繋げる。</p> <p>(2) 地域の文化団体等との一層の連携や新規団体の開拓</p>
取組に対する自己評価	<p><input checked="" type="checkbox"/>評価できる やや評価できる やや評価できない 評価できない 判断保留</p>
II 評価委員会による検証・評価	
取組に対する全体的評価	<p><input checked="" type="checkbox"/>評価できる やや評価できる やや評価できない 評価できない 判断保留</p>
評価のコメント及び今後の課題方向性等の提言	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナの影響を最も大きく受けた分野の一つであったが、行動制限が明けてから地域連携に欠かせないイベントや事業が実施され始め、評価指標である地域団体活動への参画件数が前年を大幅に上回り、目標に達したことは大いに評価したい。 ・令和6年12月から配信を開始したデジタル版「れきはく通信」は、館を身近に感じてもらえる取り組みとして継続を期待したい。 ・友の会主催の展覧会「新潟県中越大震災20年」は時機を得た企画であり、また、2000年から関原町有志の会と協働して継続してきた「サイノカミ」は、地域の伝統的な民俗行事を残していく取り組みとして評価できる。

活 動 評 価 表

機能・取組分野	情報発信／情報発信	経営企画課		
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・当館の活動について、県民認知度を高める。 ・本県の歴史・文化的魅力を県外・海外にアピールすることで、交流人口の増大への寄与を図る。 			
主な実現方策	<ul style="list-style-type: none"> ・リピーターや新規来館者の拡大に向けた広報の展開。 ・ITやマスコミを活用した情報発信の充実を図る。 ・県外客誘致のための広報に努める。 ・観光事業団体との連携を強化し誘客に努める。 			
I 博物館による自己点検と評価				
取組実績	○ [評価指標] 新聞・雑誌・テレビ等に報道掲載された件数			
	令和5年度	令和6年度	令和9年度	
	実績	目標	実績	目標
	200/129/181	200/100/150	163/104/111	200/100/150
	○ [評価指標] 館ホームページへのアクセス件数			
	令和5年度	令和6年度	令和9年度	
	実績	目標	実績	目標
	110,625件	100,000件	83,595件	100,000件
	(1)報道掲載			
	<p>近年の経費削減により、新聞をはじめメディアに掲載・放送を依頼できる回数（有料広告）が減少している。ラジオは、長岡地域振興局の状況の変化等によりFMながおかでの放送が4分の1（年間96件→24件）となったため、減少した。</p> <p>※新聞は、新潟日報・長岡新聞及び取材・掲載依頼が直接あった新聞社のみの数値</p>			
(2)インターネット				
<ul style="list-style-type: none"> ・HPアクセス数はグーグルのカウント方法の変更（令和5年7月よりユニバーサルアナリティクス UA からグーグルアナリティクス4に変更、3割減でカウントされる）により、数値は減少したが、昨年度と同等のアクセス件数があったと予想される。 ・公式SNS（X, Facebook, Instagram）を活用し、定期的に情報発信した。 ※R7.3月末時点での各フォロワー数。（）はR6.3月末の実績値。 ・X：14,419（13,895）、Facebook：1,939（1,924）、Instagram：2,301（2,125） <p>※R7.3月末時点での各投稿数（1ヶ月平均）は以下のとおり。（）はR5年度。</p> <p style="margin-left: 20px;">X：38件（38件） Facebook：36件（36件）、Instagram：36件（36件）</p>				
分析	<p>(1)新聞・ラジオでの報道件数が減少</p> <p>(2)各SNS投稿数は1日1回以上の投稿を維持している。</p>			
課題	<p>(1)限られた広報関係予算の中での効果的な情報発信</p> <p>(2)SNS及びHPによる積極的な情報発信の継続と、若年層に届くSNS発信</p>			

取組に対する 自己評価	<input checked="" type="checkbox"/> 評価できる やや評価できる やや評価できない 評価できない 判断保留
II 評価委員会による検証・評価	
取組に対する 全体的評価	評価できる <input checked="" type="checkbox"/> やや評価できる やや評価できない 評価できない 判断保留
評価のコメント 及び今後の課題 方向性等の提言	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年度は、二つの評価指標とも目標に届かなかった。昨年度までは両指標とも目標超えが続いていた。ホームページについてはカウント方法の変更による数値の減少で、昨年度と同等のアクセス件数と予想されるという。注視したいのは「新聞・雑誌・テレビ等に報道掲載された件数」である。近年の広告費の減少、新聞の休刊、長岡地域振興局の状況の変化による地元 FM 局の放送減少などが要因に挙げられている。展示や活動の質をさらに高め、館の存在感をアピールすると同時に、効果的な情報発信のあり方について不断に知恵を絞る必要がある。ホームページや公式 SNS での発信に一層工夫を凝らしてアクセスやフォロワー数を増やすことも含め、具体的な対応策を講じられたい。

活 動 評 価 表

機能・取組分野	管理運営	経営企画課
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・運営方針を館職員で共有し、方針を意識しながら博物館活動を進める。 ・目標の実現に向けた効率的な運営を行う。 ・来館者への安全・安心の提供に努める。 	
主な実現方策	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価・外部評価の実施。 ・評価結果の的確な反映による PDCA サイクルの確立。 	

I 博物館による自己点検と評価															
取組実績	○ [評価指標] 全体収支比率	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <th>令和 5 年度</th> <th colspan="2">令和 6 年度</th> <th>令和 9 年度</th> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td>目標</td> </tr> <tr> <td>5.3%</td> <td>5%</td> <td>3.9%</td> <td>5%</td> </tr> </table>		令和 5 年度	令和 6 年度		令和 9 年度	実績	目標	実績	目標	5.3%	5%	3.9%	5%
	令和 5 年度	令和 6 年度		令和 9 年度											
	実績	目標	実績	目標											
	5.3%	5%	3.9%	5%											
○ [評価指標] (評価指標項目の達成率)	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <th>令和 5 年度</th> <th colspan="2">令和 6 年度</th> <th>令和 9 年度</th> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td>目標</td> </tr> <tr> <td>85%</td> <td>100%</td> <td>75%</td> <td>100%</td> </tr> </table>		令和 5 年度	令和 6 年度		令和 9 年度	実績	目標	実績	目標	85%	100%	75%	100%	
令和 5 年度	令和 6 年度		令和 9 年度												
実績	目標	実績	目標												
85%	100%	75%	100%												
※指標 20 項目中、15 項目達成															
	(1) 運営方針に沿って活動に取り組んだ。また、同方針に基づく検証・評価を継続した。 <ul style="list-style-type: none"> ・活動評価表の作成及び経営会議での議論等による自己評価 ・外部評価委員による検証と評価 														
	(2) 月各 1 回の課内会議、経営会議、全体会議を連動させ、館運営や活動の情報共有及び進捗管理に努めた。														
	(3) 施設管理について、保管、展示、来館者の安全確保に影響を及ぼさないよう、老朽化もしくは不具合が発生した設備・機器等の更新・補修を実施した。														
	(4) 来館者の安全・安心確保、要望聴取に関しては、従前の日常的対応（業務日報・アンケート等）を継続した。 また、火災等に備えた防災訓練を 3 回行い、緊急時の速やかな誘導等初動対応の確認を行った。														
分 析	(1) 目標の設定・共有を図りながら進める、これまでの館運営の基本的な仕組みを継続し、定着・深化を図っている。														
課 題	(1) 施設・設備の老朽化への対応（計画的な施設・設備等の更新及び補修の実施） (2) PDCA サイクルを定着させ有効に機能させる。														

付帶資料

令和6年度第1回新潟県立歴史博物館評価委員会 次第

令和6年12月19日(木)

10:00～

新潟県立歴史博物館研修室

1 開 会

2 議 事

- (1) 令和6年度評価について
- (2) 令和6年度事業概要について

3 閉会

○配付資料

【資料1】新潟県立歴史博物館の評価委員会について

【資料2】令和6年度委員会スケジュール

【資料3】入館者状況

【資料4】学芸・交流普及事業概要

【資料5】評価報告書対応状況

令和6年度県立歴史博物館評価委員会 スケジュール

		会 議	報 告	内 容
R6	12月 19日	第1回委員会		委員会スケジュール説明 取組状況説明
R7	1月			
	2月	(第1回検討会)		6年度実績確認
	3月			
	4月			
	5月	第2回委員会		自己評価最終報告 評価確認 R7年度事業説明
	6月			
	7月	第2回検討会	素案検討	報告書案持ち寄り検討
	8月		報告書完成・提出	

歴史博物館 観覧者、観覧料収入の状況

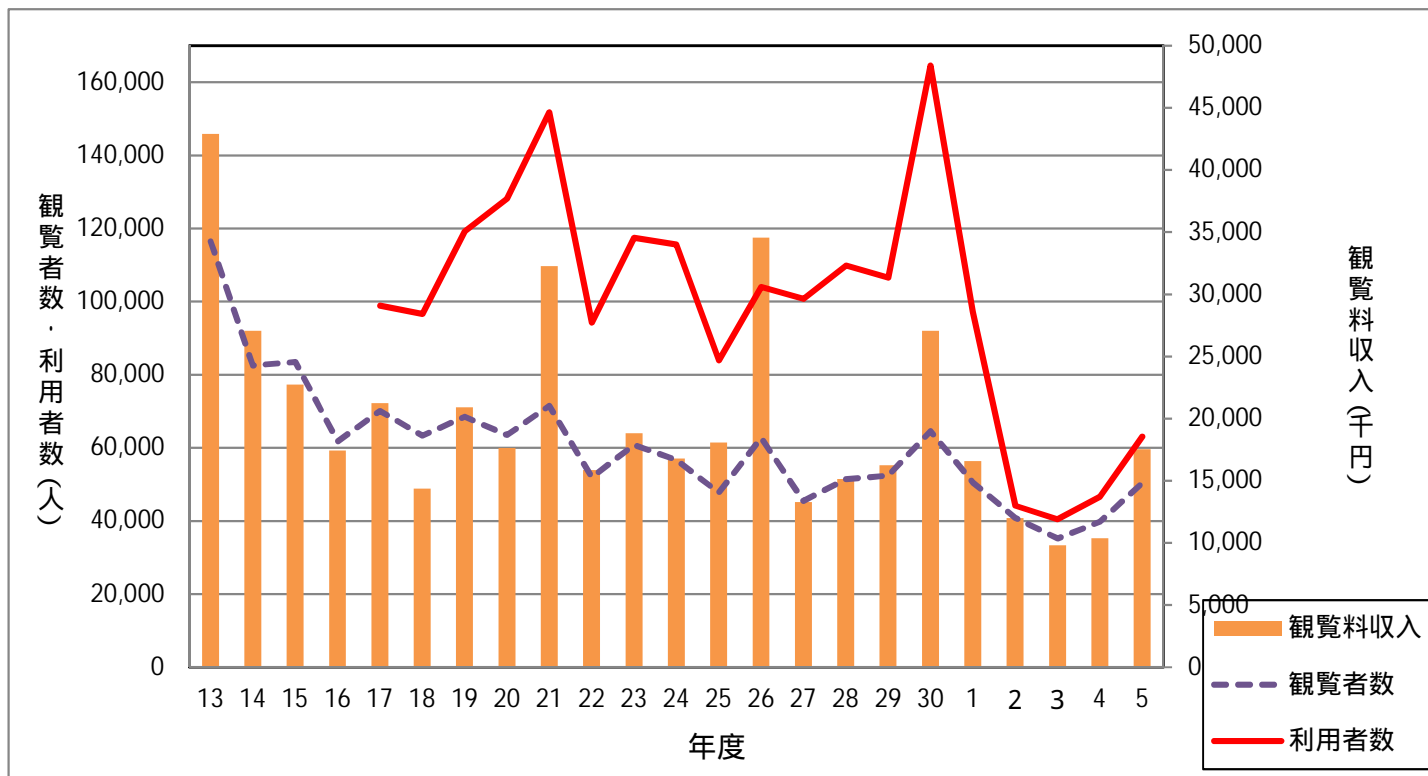
1 観覧者数・観覧料収入

(H12～H14.9の間は未就学児をカウントせず)

年度	観覧者数	対13年度比	観覧料収入(千円)	対13年度比	利用者数	対17年度比	備考
13	116,485		42,900				
14	82,503	70.8%	27,051	63.1%			
15	83,454	71.6%	22,735	53.0%			
16	61,754	53.0%	17,422	40.6%			10.24～12.20中越大震災のため休館
17	70,057	60.1%	21,232	49.5%	98,864		
18	63,315	54.4%	14,366	33.5%	96,592	97.7%	
19	68,491	58.8%	20,896	48.7%	119,203	120.6%	7.16～23中越沖地震のため休館
20	63,510	54.5%	17,615	41.1%	128,118	129.6%	
21	71,461	61.3%	32,252	75.2%	151,801	153.5%	
22	51,987	44.6%	15,856	37.0%	94,271	95.4%	
23	60,788	52.2%	18,821	43.9%	117,425	118.8%	
24	56,665	48.6%	16,774	39.1%	115,639	117.0%	
25	47,791	41.0%	18,062	42.1%	83,915	84.9%	H26親鸞展前売券分5,000千円を含む
26	62,737	53.9%	34,535	80.5%	103,990	105.2%	
27	45,491	39.1%	13,271	30.9%	100,718	101.9%	
28	51,467	44.2%	15,130	35.3%	109,847	111.1%	
29	52,423	45.0%	16,231	37.8%	106,489	107.7%	
30	64,596	55.5%	27,046	63.0%	164,556	166.4%	共催展覧会入館者52,235人
1	50,521	43.4%	16,578	38.6%	97,274	98.4%	
2	40,843	35.1%	11,980	27.9%	44,197	44.7%	4.18～5.18新型コロナのため休館
3	35,212	30.2%	9,787	22.8%	40,472	40.9%	9.13～9.16新型コロナのため休館
4	39,836	34.2%	10,372	24.2%	46,649	47.2%	
5	50,423	43.3%	17,520	40.8%	63,070	63.8%	

観覧者数 有料者 + 無料者(未就学、小中、免除者)

利用者数 常設観覧者数 + 企画観覧者数 + 館内活動(講演会、イベント等)・館外活動(出前講座、授業等)参加者数



R6 入館者状況 (R5、R6とも11月末現在)

	R5年度	R6年度
常設展観覧者	27,825	21,089
企画展観覧者	15,780	13,389
その他利用者	4,142	7,330
収入	15,601千円	9,655千円

令和 6 年度事業概要（学芸課） 令和 6 年 11 月末集計

1. 企画展事業

a) 春季企画展「動物たちの浮世絵」

4 月 20 日(土)～6 月 9 日(日)

浮世絵は見て美しい美術作品であるとともに、当時の社会の様子や庶民の興味や憧れを知ることができる歴史資料である。本展は動物たちをテーマに、歌麿、北斎、広重、国芳ら人気絵師たちの活躍を紹介するとともに、猫、犬をはじめ珍獣として注目を集めた舶来動物たちやサーカスの動物たちが登場する浮世絵から当該期の人と動物のかかわりについて紹介した。

b) 夏季企画展「大佐渡」展

7 月 13 日(土)～8 月 25 日(日)

佐渡は離島として、かつては一島一国で独特の歴史を紡いできた。同じ新潟県といっても、本土とは異なる独特な文化を持っている。また佐渡は、金の島として知られ、「佐渡島の金山」の世界文化遺産の登録がなされた。本展は、このような佐渡の歴史や人々の暮らしについて、考古学、歴史学、民俗学など多様な視点から紹介する。

c) 秋季テーマ展 山の洲(くに)文化財交流事業「珠玉の国 新潟 ヒスイ、青玉、赤玉」

9 月 14 日(土)～11 月 10 日(日)

新潟県には、縄文時代～古墳時代に広域で珍重されたアクセサリ素材であるヒスイが糸魚川に、碧玉が佐渡の産地に存在する。令和 4 年に新潟県の石に指定された翡翠(ヒスイ)のみならず碧玉も加えた日本海の珠玉と言える 2 つの石を、遺跡出土品を通じて紹介し、縄文時代から全国各地へと広がっていた新潟の産品のルーツと広がりを紹介した。

d) 冬季テーマ展示「生活の証拠品が民具である」山口賢俊が守ったコレクション(開催予定)

令和 7 年 2 月 8 日(土)～3 月 23 日(日)

新潟県民俗学会旧蔵民具コレクションは、県民俗学会二代会長の山口賢俊が中心となって収集整理したものがある。山口賢俊は「生活の証拠品が民具である」と語り、民具保存の重要性を発信しつづけた。『高志路』(現、新潟県民俗学会誌)が創刊 90 年となる本年に、山口賢俊の調査ノート・スケッチとともに、民具コレクションを紹介し、それらが博物館に収蔵される意義を紹介する

2. 調査研究事業

a) 科研費取得状況

研究代表

<新規> 1 件

・学術研究助成基金助成金(研究活動スタート支援)「縄文時代後期土器棺再葬墓に関する考古学と分析科学を融合した研究」

<継続> 4 件

・基盤研究(C)「佐渡金銀山技術書群の分析に基づく鉱山資料の集成と鉱山社会史の解明」(2022～2025 年度)

・基盤研究(C)「本州中央部の大規模遺跡の再検証に基づく更新世終末の動物資源利用行動の評価」

(2020～2023 年度、1 年延長)

・基盤研究(C)「史資料原本調査を中心とした中世文書群の伝来に関する研究」(2020～2023 年度、1 年延長)

・基盤研究(C)「越佐徴古館」構想の復元を通じた「横田切れ」水害被災地の復興」(2020～2023 年度、1 年延長)

研究分担

<新規> 1 件

・基盤研究(B)「近世日本における単身女性の地域間移動 ジェンダー・家・周縁・媒介者」(2024～2027 年度):新潟大学

<継続> 5 件

・基盤研究(B)「更新世末の北海道における尖頭器製作・使用行動に関する総合的研究」(2023～2026 年度):北海道大学

・基盤研究(B)「更新世末から完新世初頭における先史狩猟採集民の生態資源利用をめぐる研究」(2023～2027 年度):静岡大学

・挑戦的研究(萌芽)「型式学と AI を融合したデータ駆動型研究基盤への挑戦」(2023～2025 年度):新潟国際情報大学

・基盤研究(B)「越後縄文人の食性変化と多雪化の関係を明らかにする研究」(2020～2023 年度、1 年延長):東京大学

・基盤研究(B)「須恵器 3D-RGB データの深層学習クラスター解析による型式・年代分類基準の検証」(2022～2024 年度):新潟国際情報大学

その他外部研究費取得状況 なし

b) 論文等

・専門書・専門誌への論文等その他:11 件

・調査報告書・辞典・参考書等:14 件

・一般書・一般雑誌・新聞等:4 件

・学会発表等:13 件

・講演等:11 件

・展示協力等:20 件

・高等教育機関(大学等)への年間講師派遣等 :19 件

3. 常設展示

常設展示ワンポイント解説

・参加者数: 584 名 / 64 回(うち、ゲスト解説1回)

常設展示資料替え

・4 月実施: 35 件の資料を入れ替え

・10 月実施: 41 件の資料を入れ替え

新規展示

- ・経櫃(柏崎市物部神社蔵、当館寄託)新潟県指定文化財 令和6年10月1日～11月4日
令和6年3月新指定品
- ・新潟の衣生活資料(当館蔵)新潟県指定文化財
令和6年3月新指定品

4. 資料収集保管事業

- 資料寄贈 :28件
- 資料寄託:0件
- 新規データ登録件数:432件
全登録資料数:48,222件 うち公開中資料数:37,300件
- 公開データ更新件数:22件
- うち新規データ公開件数:13件
- 保存環境:大きな事故なし
 - ・IPM 研修実施:4月3回、9月1回
 - ・日常点検継続
 - ・常設展示室内殺虫作業:6月実施
 - ・収蔵庫内空気環境調査(パッシブインジケータ、イオンクロマト法による)
 - ・企画展示室展示ケース等環境調査(温湿度、パッシブインジケータ)
 - ・収蔵庫清掃実施、点検は毎月実施

令和6年度事業概要（交流普及） 令和5年度までは年度実績、令和6年度は11月末現在実績

1 講座

当館研究員の「調査・研究」活動の成果を広く県民に普及する場として、また、県民の多様なニーズに即した生涯学習の場とするため、講座を開講している。館内講座・出前講座合わせて1,459人の参加を得た。

(1) 館内講座

19回開催し、809人の参加を得た。

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
実施回数	44	38	43	41	48	48	44	45	35	24	37	36	41	19
参加者数	2,826	2,412	2,749	1,746	2,099	3,044	1,620	2,255	1,678	404	716	771	1,265	809

*実施内容：古文書講座、体験型講座、企画展関連講座など

(2) 出前講座

15市町で計21回開催し、650人の参加を得た。

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
実施回数	16	17	19	15	17	18	19	23	22	16	33	22	32	21
参加者数	504	743	656	404	648	529	707	745	559	364	914	543	634	650

*実施内容：「源氏物語の基礎知識」「お菓子と新潟」「井上円了の妖怪学」など

2 体験プログラム

日曜日の午後に体験コーナーで実施。41回実施し、1,441人の参加を得た。

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
実施回数	115	125	118	113	116	125	120	114	117	33	53	62	51	41
参加者数	4,019	5,376	3,294	2,678	3,518	4,671	4,581	4,475	6,087	586	811	1,084	1,330	1,441

*実施内容：まが玉作り、縄文コロコロ体験、甲冑試着体験など

*令和元年度まで土日祝日の開催、令和2年度から日曜日のみ開催。

3 学校団体受入れ

受け入れた学校団体（視察含む）は、小学校98校5,034人、中学校24校1,428人、高校4校68人、特別支援学校8校77人、大学8校132人、その他136団体1,779人（うち幼稚園・保育園5団体163人）であった。

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
学校	228	210	241	202	215	231	224	242	224	175	189	206	188	142
小学校	181	158	175	150	145	155	158	150	141	110	115	120	113	98
中高大特支	47	52	66	52	70	76	66	92	83	65	74	86	75	44
その他	165	168	143	309	254	200	167	189	187	168	136	151	164	136
計	393	378	384	511	469	431	391	431	411	343	325	357	352	278

4 出前授業

県内の小学校・中学校5校からの要請により実施した。

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
実施回数	10	8	17	26	16	19	20	21	28	15	14	7	17	5

*授業内容：まが玉作り、火起こし、歴史資料を読み解く授業、戦争関係についての体験・授業など

5 職場体験

県内の中学校の依頼により、6校34人を受け入れた（体験生徒数は延べ人数）。

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
実施回数	7	8	8	4	5	5	9	8	6	1	3	6	6	6
参加者数	19	22	24	24	34	35	73	39	35	9	24	41	32	34
実施延べ日数	15	12	19	9	12	13	20	16	15	3	7	12	13	13

*体験内容：体験活動の準備、受付体験、バックヤード見学、拓本体験、SNS体験など

令和 5 年度博物館評価報告書を受けて

評価：A = 評価できる、B = やや評価できる、C = やや評価できない、D = 評価できない、E = 判断保留

機能	取組分野	令和 5 年度 二次点検 (外部評価)		評価を受けて
		評価 上: 自己 下: 二次	主なコメント	
総括		A	<ul style="list-style-type: none"> 利用者総数・観覧者数が約 3 割増加したことは、コロナ禍が落ち着き、これまで制限されてきた行動が緩和されたことにもよるが、創意や工夫といった当館職員の日々の尽力によるものと考えられ、高く評価できる。 館の基本理念にも掲げられている「新たな歴史像の県民との創造」には県民一人ひとりが本県の歴史に触れあうことが肝要であり、あらゆる世代の利用が望まれる。この点で、新型コロナウイルスの 5 類移行により県内修学旅行利用の学校団体来館者数が減少したことは、懸念されることである。今後は、これらの利用者が再び来館するような仕掛けなど引き続きの恒常的な利用者の確保が重要であり、その意味で各方面への聞き取りや志向の動向把握などを通じた若年層のニーズの把握は契機になりえるものと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校団体来館者減少についての対策として、例年 4 月に配付している学校への案内のほかに、今年度は小学 3 年生の「昔のくらしと道具」の学習が始まる時期に合わせ 10 月に担任向けの案内を配布した。近年は、県外の学校団体の利用が増加していることから、県外に向けた PR についても積極的に取り組みたいと考えている。 若年層のニーズについては、毎週日曜日の体験プログラムの際に行うアンケートや聞き取りのほか、博物館実習に参加する大学生や新聞制作技術講習会 企画展取材に参加する新聞部の高校生等との情報交換を活用し把握に努めたい。
		A	<ul style="list-style-type: none"> なお、新たな展開を図ろうとする場合、職員減少の中ではすべて従前と同じ行動を前提としていればそれは困難であり、社会経済の変化にも対応しながら新潟県の価値を発信し続けるためには、引き続き館内外の関係者一人ひとりの自覚と思考が求められる。 	
収集・保管	収集・保管	A	<ul style="list-style-type: none"> 評価指標は 2 項目とも目標を達成しており、評価できる。 データベース公開は、内容の更新作業も博物館の重要な業務といえる。職員が業務過多とならないよう、今後も計画的に進めてほしい。 良好な保管環境を維持するため、点検、IPM 研修等、様々な活動を行っている。また、「文化財活用センター パッシブインジケータアプリ説明会」に参加するなど、職員の知識向上に努めていることがわか 	<ul style="list-style-type: none"> データベースには既に 48 千件以上の資料情報を登録済みであり、そのうちの 8 割弱を公開している。データは日常的な資料管理に活用しており、日々データ内容の見直しを行っている。限られたリソースの中でできる限り整理作業を進めていきたい。

		A	<p>る。「保存」は目立たない分野だが、大いに評価できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未整理資料の整理など、人員不足が課題になっているが、収集・保管で対応が後手に回ることがないよう、十分に配慮してほしい。 ・収蔵庫不足の問題は、喫緊の課題として浮上している。収蔵庫の増設は、膨大な予算が必要だろうが、収集・保管・公開の好循環が生まれるよう、改善策の速やかに検討を開始してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・収蔵庫は既に満杯状態で、特に民具を中心に収蔵している収蔵庫2の状況は危機的である。収蔵庫不足は全国的に課題となっていることから他県の事例等の情報収集に努め、改善策について検討を進めていきたい。
展示	常設展示	A	<ul style="list-style-type: none"> ・評価指標となる新規展示試行回数、ワンポイント解説共に、実績は目標値をクリアしている。 ・定期的な資料展示の入れ替えや定期点検、保守点検、補修なども適切に行われており、評価できる。 ・新規展示手法の取り組みとしてアンケートを実施し、「来館者がどこから来たのか」を地図上に視覚的に表現する展示がなされた。館にとってはマーケティングとなる試みであり、来館者にとっては館の実態を知ることが出来る展示となった。継続的に実施予定とのことで、来館者データとして今後の企画にも生かしてほしい。 ・展示室照明のLED化も進んできているが、未着手の展示コーナーがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワンポイント解説は定期的実施し、外部からのゲスト解説も実施している。今後も引き続き実施したい。 ・資料保護の観点から定期的実施している資料替えも継続していく予定である。 ・新たに県指定文化財となった収蔵資料の展示を行った。 ・常設展示室の残された部分のLED化については引き続き予算要望をしていきたい。
		A	<ul style="list-style-type: none"> ・予算確保の厳しい中ではあるが環境面への配慮からもさらにLED化を進めてほしい。 ・適切な維持管理、展示替え等とともに、新たな試みが実施されていることは評価できる。 	
	企画展示	A	<ul style="list-style-type: none"> ・企画展は、予算が減額されたことで、令和2年度に年4回開催から春・夏の2回開催となり、その代替として、テーマ展示を秋・冬の2回開催していることは、社会的責任を果たすという意味で評価できる。 ・展示ジャンルも、「歴史」「民俗」「考古」の3分野となり、目標を達成していること、展示内容の質が高いこと、企画展示室の稼働日数が開館日数の3分の2以上となったことも評価したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も常に県民のニーズを念頭に新たな研究成果を盛り込んだような企画展、テーマ展を計画していきたい。
		A	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も厳しい予算や人員配置の状況下ではあるが、創意工夫をしながら来館者を増やせる企画展やテーマ展示などの継続を期待する。 	

調査・研究	調査・研究	A	<ul style="list-style-type: none"> ・日本学術振興会の科学研究費助成といった外部資金の取得件数は、目標の倍に達しており、館の調査・研究が学術的にも高く評価されていることの証と言える。今後は上記助成以外の外部資金の獲得も視野に幅広い調査・研究の展開を期待する。 ・学会発表等件数について、目標値を上回る実績を示しており、また、論文等執筆件数についても、令和4年度は目標値を下回ったものの、令和5年度はそれを上回っている。人員の減少等の環境の中で、これらにおいて大きな成果を示せたことは、研究員の多大な尽力などがあったものと考えられ、大変評価できる。 ・館の調査・研究の目的の一つに「調査研究の成果の県民への還元」があることから、今後はこれらの調査・研究の成果を展覧会における図録の作成などを通して還元していくことを期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も県内の調査研究を牽引するような活動を引き続き行っていきたい。 ・日々の研究活動を県民に還元するための新たな発表媒体などを検討している。
		A		
教育・普及	学校教育	A	<ul style="list-style-type: none"> ・県内小学校440校のなか101校の学校団体の利用があった。令和4年度は96校ということを見ると評価できる。今後も利用促進の広報活動を展開してほしい。 ・体験活動の新プログラム導入について、目標回数を超えたことは評価できる。また、体験活動の満足度は常に高いことも評価できる。今後も新規のプログラムを開拓するなど、積極的な体験活動を期待する。 ・出前授業の依頼が令和4年度の7回418人に対し、令和5年度は17回806人となった。大幅に増加していることは評価できる。今後も企画展をきっかけにしたテーマでの出前授業を開拓するなど、新たな取り組みに挑戦してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・県内小学校向け広報については、例年4月に既存の学校向け利用案内を配付しているが、一例として、学習内容に合わせた利用方法を具体的に提案するような広報等も行っていきたい。 また、出前授業については人員的にも予算的にも限りがあり今後さらなる増加は難しく来館困難な学校を優先せざるを得ない状況であるが、新たな取り組みについても今後検討していきたい。 ・体験活動については、引き続き新規プログラムの導入を進め、高い満足度の維持に努めていく。
	社会教育	A	<ul style="list-style-type: none"> ・出前講座については、令和4年度の22回543人に対し、令和5年度の32回618人は評価できる。満足度97%と非常に高い数値を出していることも評価できる。また、令和5年度は胎内市、聖籠町等遠方での講座を行ったことも評価できる。今後とも市町村に積極的に広報を重ね、特に来館が困難な地域での生涯学習を推進することを期待する。 ・館内講座については、令和4年度の36回771人に対し、令和5年度 	<ul style="list-style-type: none"> ・館内講座、出前講座とも、参加者のアンケート等を通じニーズの把握を行い、内容の充実を図ってきたい。 また、出前講座の実施場所の選定に当たっては、引き続き来館が難しい地域にも配慮し、多くの県民の生涯学習に役立つことができるよう取り組んでいきたい。

		A	<p>は 42 回 1265 人と大幅に増加したことは評価できる。満足度に関しても 95%という高水準であり評価できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動延べ人数に関しては、令和 4 年度の 258 人に対し、令和 5 年度の 440 人は評価できる。活動参加の意識がコロナ禍前に戻ってきたと思われる。内容については、案内解説や資料整理・体験メニュー開発等、様々なニーズに対応できるように、活動の幅を広げることを期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアについても参加者の意見を参考に活動内容の充実に努め、多くの方からご参加いただけるよう取り組んでいきたい。
連携	連携	B	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナが 5 類に移行したとはいえ、その影響が残る状況下で、数値化することに時間がかかる 2 つの評価指標とも目標数を下回ったことはやむを得ないであろう。 ・コロナ禍を乗り越えて 20 回も続いている友の会主催の「マイ・コレクション・ワールド」を開催できたことや、平成 12 年（2000 年）から関原町有志の会と協働して継続してきた「サイノカミ」という地域の伝統的な活動を持続可能なものとする取り組みは評価できる。 ・様々な手段・手法を用いて、既存の団体等とさらなる連携強化や新しい試みで連携可能団体とのつながりを深めるなどで実績をあげ、評価指標の目標数に近づけてもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでも、地域の諸団体や当館友の会と連携し、共催事業等を行ってきたが、今後も地域の活力向上に寄与できるよう既存の取組の充実を図るとともに、新たな連携も模索していきたいと考えている。
		B		
情報発信	情報発信	A	<ul style="list-style-type: none"> ・令和 5 年度は、「新聞・雑誌・テレビ等に報道掲載された件数」、「館ホームページへのアクセス件数」のいずれの評価指標とも目標を上回った。このところ両指標とも目標超えが続いており、職員の継続的な努力のたまものと評価したい。既存のメディアを通じた発信、ホームページや公式 SNS を使った館自身による発信はともに、館の取り組み、魅力をアピールする上で重要な役割を果たしている。発信する情報の内容、見せ方などについても工夫、改善を怠らず、来館者数の増加や県民認知度のさらなる向上につなげてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当館の認知度の向上を図り、多くの方からご来館いただくためには、展覧会やイベントの告知だけでなく、様々な事柄を工夫しながら発信していくことが重要であると考えている。 県の財政状況により広報予算は年々厳しくなっているが、既存の各種メディアに加え、ユーザー数が増加している SNS も活用しながら、引き続き当館の魅力の発信を行っていきたい。
		A		
管理運営	管理運営			

大河ドラマになった古代

2024年大河ドラマ「光る君へ」が今日（12月15日）、最終回を迎えます。

これまでNHKでは、歴史的な時代や著名人等をテーマとした大河ドラマを制作して放送しています。この文章を執筆している段階で63作品が放送され、さらに来年、再来年の作品も公表されています。これらを対象とした時代で見ると、圧倒的に多いのが戦国時代（26作品）、次いで幕末（15作品）となります。最も古い時代は、平将門を主人公とした「風と雲と虹と」（1976年放送）の平安時代（9世紀末～10世紀初）で、これに次ぐのが紫式部を主人公とした「光る君へ」となります（10世紀末～11世紀初）。

奈良時代以前については全く対象となっていませんし、平安時代も源平争乱期を除けば、この2作品と「炎立つ」（1993年～94年放送）（11世紀後半～12世紀末）のみと非常に少なくなっています。やはり大河ドラマといえば、誰もが知っている歴史上の偉人や著名な事件がないと視聴者の“食いつき”が悪いということなのではないでしょうか。奈良平安時代でも日本の歴史を大きく変えるような事柄はありますし、重要人物もいるのですが、一般の人びとにはあまりにも知られていなさすぎるのでしょうか。有名な戦国武将、幕末の新選組や戊辰戦争のエピソードなど、既に人々の記憶に刷り込まれている事象が多々ある戦国時代や幕末とは大違いです。また、奈良平安時代のようにあまり取り扱われることのないような時代を舞台とすると、セットの大道具や衣裳、小道具などを旧来の作品と使いまわしができない、時代考証が面倒などという大人の事情もあるのでしょうか。

「光る君へ」は平安時代中期を描いた、大河ドラマとしては珍しいものでした。今日、どのようなラストを迎えるのか楽しみです。

(浅井勝利)

長者ヶ平遺跡の土器口縁破片

中央日本4県（静岡県、山梨県、長野県、新潟県）知事サミットを受けて、令和5年度から新潟県では山の洲文化財交流事業に参画している。令和6年度には「珠玉の国 新潟ーヒスイ,青玉,赤玉,ー」のタイトルでシンポジウムと展示を行った。新潟県立歴史博物館の秋季テーマ展示がそれである。テーマ展示は運営経費不足のなか、企画展示室を稼働させるという理不尽な要請で実施されている。そのため、経費を最小限にとどめ、テーマにあわせて無理繰り展示資料の調達をする場面も少なくない。異なる所蔵機関から展示資料を借り、当館で展示する。終了後には各所蔵機関へ展示資料を返還する。展示資料の所蔵機関の好意に甘えつつ、博物館がすべてを賄うしかない。そうしたテーマ展示に伴う厳しい工程のなかでも思わぬ僥倖に浴することはある。それまで確認されていなかった資料の発見である。テーマ展示のため資料を借り受けた佐渡国小木民俗博物館では、常設展示中の資料をケースから抜いていたため、ケース内に隙間が生じないように、レイアウトを調整していた。借り受けた資料が戻れば、再調整を要する。それを補助する際、手に取った長者ヶ平遺跡出土の土器口縁破片の突起には、三角形土版を取り込んだと考えられる残欠があった。三角形土版は、縄文時代中期火焰型土器のころの土偶の一種と考えられる土製品である。こうした三角形土版の突起に造形される土器は、十日町市^{ささやま}笹山遺跡や長岡市^{さんか}山下遺跡など信濃川流域の遺跡で確認されるにとどまり、佐渡島の遺跡でははじめての発見である。また、笹山遺跡や山下遺跡には三角形土版それ自体もある。ところが長者ヶ平遺跡には土偶はあるものの、三角形土版は確認されていない。火焰型土器の本場は信濃川流域と想定され、長者ヶ平遺跡の火焰型土器や王冠型土器あるいは土偶は、そうした地域間の交流を示す物的証拠と評価されてきた。そこに新たに三角形土版が加わった。

（宮尾亨）

サイノカミと新潟県立歴史博物館

サイノカミは、小正月の火祭行事です。地域によっては、オマツヤキ、ドンドヤキ、ドウラクジンヤキなどとも呼ばれています。ここ長岡市関原町で行われるサイノカミでは、カヤやワラなどを組み立てて燃やして無病息災を祈ったり、するめを焼いて食べ、歯が丈夫になるように祈ったりする姿が毎年の風物詩となっています。

新潟県立歴史博物館とサイノカミの出会いは、開館までさかのぼります。平成3年から始まった関原町1丁目のサイノカミですが、平成11年にサイノカミの会場探しの難航、機材の不足などからサイノカミの存続の岐路に立つ時期がありました。そんな折、当館の開館を機に共催する気運が高まり、平成12年度より新潟県立歴史博物館と関原町1丁目
が連携して行われるサイノカミが開始されました。

サイノカミの安定的な運営のため有志の会も発足し、綿密な連携のもと、準備作業等を進めてきました。これまで新潟県立歴史博物館とサイノカミ有志の会で連携しておこなってきた準備作業ですが、昨年度から新しい動きがありました。それは、前日準備に地元の小中学校の子どもたちが参加してきてくれたことです。有志の会の発案で、地元の学校に呼びかけをしたことで実現しました。子どもたちは、小竹準備やとば編みの手伝い、お焚き上げをする品の運搬、会場の雪踏みを行い、最後にお菓子&お餅まきをして、お土産を手に喜んで帰っていきました。今年度も、こうした手伝いを通して子どもたちに地域行事を少しでも身近に感じてもらいたいと思い、準備を進めています。参加してくれた子どもたちが大人になり、一緒にサイノカミの準備ができる日を願っています。

今年度は、令和7(2025)年1月12日(日曜日)に開催されます。どなたでも参加できますので、皆様のご来場をお待ちしております。

(交流普及)

～編集後記～

新潟県立歴史博物館では、新潟県地域史研究ネットワーク事業の一環として、2024年12月から「れきはく通信」を配信いたします。館内での出来事や研究のこぼれ話、資料紹介など、“れきはく”から様々な話題をお届けします。お楽しみください。

配信方法は、毎月15日配信の「新潟県地域史研究ネットワークニュース」と同報のほか、月末更新となる新潟県立歴史博物館のホームページでもご覧いただけます。

不定期刊行となりますが、どうぞお付き合いください。

ご意見、ご要望は新潟県地域史ネットワークニュース事務局までご連絡ください。

事務局メール net@nbz.or.jp

令和6年度第1回評価委員会 議事録

令和6年12月19日
午前9時50分～午前11時35分
新潟県立歴史博物館 研修室

出席者

評価委員：宍戸委員長、山本副委員長、金山委員、内藤委員、小林委員、湯浅委員
県文化課：廣井課長補佐、新田係長、神田主任
歴史博物館：小原館長、山田副館長、浅井学芸課長、山田経営企画課長、松谷経営企画課専門研究員

事務局

これより、令和6年度第1回評価委員会を開催する。
それでは初めに、県文化課課長補佐の廣井よりご挨拶申し上げます。

文化課課長補佐（挨拶趣旨）

1年を振り返ると、一番は7月21日佐渡島の金山が世界遺産に登録されたこと。今年1年を表す漢字でも「金」が選ばれた。その中には佐渡島の金山が含まれている。今後、バックアップして新潟県文化を発展させていかなければならない。本日は、歴史博物館から令和6年度評価についてのスケジュールや今年度の事業概要、また令和5年度評価を受けての対応状況について説明する。本評価委員会において、有識者である皆様から多くご意見をいただくことで、館の魅力向上や賑わいづくりに活かすことができ、歴史博物館がより県民に親しまれ、開かれた博物館に近づくことができると考えている。当課としても、いただいたご意見や評価結果について真摯に受け止め、館と協力しながら取り組んでいきたいと考えている。ぜひ皆様方から、魅力ある運営の在り方などについて、専門的な見地から忌憚のない御意見をいただくようお願い申し上げます。

事務局

続いて、歴史博物館館長の小原よりご挨拶する。

館長挨拶趣旨

評価委員の皆様におかれてはご多用のところ、また足元の悪い中お集まりをいただき感謝申し上げます。
令和5年度の評価委員会では、宍戸委員長のもと、皆様から高い見地からご指摘をいただいた。深く感謝申し上げます。
令和6年度は当博物館の組織、人事体制が大きく変わったが、皆様から頂いた貴重な提言を踏まえ、全員で協力しながら館の基本理念の実現を目指して取り組んできました。本日も評価委員の皆様から引き続き地域の代表として、また、ご専門の立場から忌憚のない意見をいただき、今後の博物館の運営に生かしていきたいと考える。引き続きご指導をよろしくお願いしたい。

事務局

今年度は委員の交代はなし。前年度に引き続き、宍戸委員に委員長を、山本委員に副委員長をお願いしたい。
(異議なし。)

以後の議事を委員長をお願いしたい。

事務局説明・質疑応答

委員長

それでは、資料に基づいて順番に説明をお願いします。

事務局

評価委員会では、毎年度5ヵ年の運営方針の取り組み状況について事業検証を行うということになっている。令和5年度から始まって、9年度までの方針を示している。今回は、令和6年度の評価をしていただくための第1回目の評価委員会である。6年度の評価をしていただくとともに5ヵ年の中間となるため、6年度の評価を終えた時点で、運営方針の見直し修正等もご検討いただくことになる。

続いて資料2の評価委員会の今年度のスケジュールについて、本日12月19日が第1回の評価委員会となり、スケジュールの説明と取り組み状況の説明をさせていただきます。

続いて、令和7年2月若しくは3月に、第1回検討会を予定している。内容は6年度の実績確認となる。この第1回検討会について、昨年度の検討会の中で、この検討会は必要なのかという、ご意見があった。本日、この第1回検討会をどうするかも含めて皆様のご意見を賜りたい。

続いて、5月又は6月に2回目の委員会を予定している。これは館としての自己評価の最終報告と、令和7年度の事業説明をさせていただきます。それを踏まえて7月に第2回目の検討会を開き、皆様から評価をしていただく。その後、8月に観光文化スポーツ部長に評価報告をさせていただきます予定となる。

委員長

委員会は、評価委員会と検討会の2本柱で開かれている。例年2、3月に行っている第1回検討会について、必要なのかということについて資料1資料2に関してご意見賜りたい。

確認として、検討会に事務局は入らない？

事務局

委員の皆様の検討会であるが、事務局として誰も参加しないというわけにはいかない。検討会は事務局も出席させていただくが、検討会は、委員の皆様が主体となって検討していただく会となる。

委員長

第1回検討会の内容は6年度の実績確認。まだ、途中なので大体の数値となる。

事務局

昨年度だと3月に開催。2月末までの実績をお示しした。

委員長

数か月後、2、3か月後にはこのメンバーで委員会が行われる。ここでは確定数値が出ることになる。であれば必要ないかということになる。

委員A

どなたの発言だったか。

事務局

出席した職員が退職し今ここにいる職員は誰も出席していないので、どなたの発言かわからないがそのような発言があったことは聞いている。

委員長

どなたの発言かわからないが、ポイントをついた発言である。

委員A

確定数値ではないので、中途半端な数値での検討会となる。第2回委員会は数値が出て説明がある。それを聞きつつ分担を決め、第2回検討会で合わせるという流れになる。そうすると、確かに内容がある議論はできないかもしれない。

委員長

皆様が忙しい中このように集まっていただくからには、ある程度議論なり意見交換なりをするからこそ意義がある。そうでないならば、私個人的にはペーパーでよい。第2回の委員会で確定値を報告してもらい議論していくのがよいのでは。

委員D

確かに中途半端な時期ではあるが、情報が事前にキャッチできる。雰囲気とか。館に来る機会にもなる。先回は駅前で行ったが、館の雰囲気はわからないので、館でやってもらった方がよい。

委員A

2、3月は企画展など企画展示室を使ったイベントはあるか。

事務局

今年度であれば民具のテーマ展が開催中である。

金山委員

来る機会を作るという意味では意味がある。

委員B

近くに住んでいるわけではないので、なかなか来る機会がない。来ることで評価委員としての役割が担えると考える。数字は確定していないけれども説明いただいてどのような指摘をしていたらいいか、考える機会になる。

委員C

私は長岡にいるので、すぐ館に見に来ることができる。資料はペーパーで見ることができ、説明があった方がよいと考える。委員が顔を合わせる機会にもなる。

副委員長

最初は必要がないならと考えていたが、皆様の意見を聞くと開催する価値があると考えている。

委員長

委員の皆様の意見を聞くと、現状を見に来る、顔合わせ等意味があり、様々な意味合いがあることから、従前どおり第1回検討会は開催したいと考える。
よろしいか。(異議なし)

委員長

日程は2、3月、冬季のテーマ展に合わせた時期に開催したい。事務局で日程調整をお願いしたい。

委員A

資料1の説明の中で7年度に修正とあるが、6年度の中で作業的なものが出てくるのか。

事務局

6年度の評価が終わった時点で、運営方針がこのままでよいか評価と合わせて検討いただき、ご意見を

いただきたいと考える。

委員長

7年度に運営方針の修正とある。修正に際して評価委員が意見を述べる場を用意するということか。

事務局

6年度の評価とともにこの時点で運営方針の修正についてもご意見いただきたい。

委員長

第2回委員会の時か。

事務局

そのとおり。

委員長

第2回委員会は盛りだくさんとなる。

館長

環境の変化や体制面の問題から基本的な枠組みは変わらないが、個別の項目の中で数値目標について見直しを図りたいところが出てきている。そこを中心にご意見をいただきたい。

委員A

館側の方から目標なり数値的なものの提案があるということか。

館長

そのように考えているが、委員の皆様からのご意見があれば伺いたい。

委員C

提案があり意見を募り方向性を決めるということか。

館長

7年度の目標数値の見直しにつなげていきたい。それをベースに7年度の評価を行って行きたい。

委員A

ある程度の事は5月に話し合い、意見交換をして決めていくということか。

館長

そのとおり

委員A

そうなると、修正としてある程度かたまったものが出てくるということか。

館長

そのとおり。6年度の評価をして、その結果を踏まえて館として修正意見を出し、皆様からご了承、修正をいただきたい。大きな方針は変わらない。

委員長

委員の皆様よろしいか。 (異議なし)

続いて資料3の説明をお願いします。

経営企画課長

令和5年度の観覧者数は50,423人。新型コロナ禍の3年度から徐々に回復してきている。観覧者が多かった上杉景勝展があったこともあるが、コロナ前の数値に近づいてきている。観覧料収入は1752万円。観覧者数と同様の傾向。利用者数は63,070人。理由として学校団体の利用が減少傾向であること、体験の回数が2年度以降大幅に減少している影響もある。

続きまして2ページ目。6年度の実績について、観覧者数は観覧券の発行ベース。11月末時点での比較。常設展は今年度減少。5年度は夏の景勝展の影響がある。今年度夏展より企画展観覧券で常設展示も観覧できることも影響している。

企画展は動物の浮世絵展が6,357人、大佐渡展が7,032人、珠玉の国展が4,183人、現在開催中の友の会展は12月18日までで412人となっている。

委員長

資料3について質問、確認しておきたいことはあるか。

委員D

常設展と企画展の観覧料が変わったということだが、企画展観覧者の中に常設展観覧者が入るのか、別々なのか。

経営企画課長

別々にカウントしている。

委員D

これまで別々であったが、戻った時にもこれまでもそうか。

経営企画課長

重複があるかと思うが、企画展のチケットを発行すると常設展もついてくるということ。

委員長

数字について、企画展は入るときのものか、発券のときのものか。

経営企画課長

企画展受付で半券をもぎったときの数。

委員長

常設展もそうか。

経営企画課長

常設展受付でもぎった数。

委員長

他にご意見はないか。

続いて資料4について説明をお願いしたい。

事務局

訂正が一つ。4. 調査研究事業とあるが、資料収集保管事業と訂正をお願いしたい。

学芸課長

企画展事業について、企画展2回、テーマ展2回となる。企画展の方は企画展事業費を使って企画展観覧料を取る事業、テーマ展の方は常設展の延長ということで開催経費をかけず、観覧料も常設展料金に含まれている。春は動物たちの浮世絵展、巡回展である。夏は大佐渡展、3年以上前から企画していたものだが、タイミングよく佐渡の世界文化遺産登録に重なった。秋のテーマ展は山の洲文化財交流事業として、静岡県、山梨県、長野県、新潟の4県で連携し開催。佐渡の珠づくりなどを中心に展示。冬は現在準備中だが、山口賢俊という新潟県民俗学会の第2代会長を務めた方が、どうやって新潟県内の民具を守ってきたかということの展示。

調査研究事業は新規が1件。今年度新たに研究員となった学芸員がとったもの。継続は4件。

論文等について、11月現在の集計。年度末に向けて雑誌などのものが出てくる。若干論文等の件数が少なくなっているが、研究員の数も減っており厳しい状況。新聞等の博物館関係のコラムを載せてもらうことが少なくなり発表媒体が減ってきている。自前で何か作ろうかということで、準備をしている。15日付でニュースレター形式で出した。

常設展示について、ワンポイント解説を毎週土日に行っている。ゲスト解説については、外部から講師を招き、解説をしていただいている。

資料替えは資料保護の関係で毎年春と秋に行っている。順調に行った。

新規で新潟県の指定文化財をお披露目という形で展示している。

収集保管事業について、寄贈が28件。民具が多い。寄託は0件。順次データベースに登録している。

新規で432件。全登録数が48,222件、このうち公開しているものが37,300件。今年度新たにデータを公開したものが13件、更新が22件。保存関係で大きな事故はなかった。

経営企画課長

交流普及の事業について大きな変化はない。6年度は11月までの数。出前講座は年度内であと3回あるが、参加人数は昨年度の実績を上回っている。体験プログラムも同様。年度内に14回開催予定。参加人数が昨年度実績を上回っている。県の子育て支援策として中学生以下の子ども同伴の保護者を無料とする事業として、当館ではわくわくファミリーデーとして実施していることがあるのではないか。館内講座はあと7回開催予定。学校団体受入について、冬期間に入るが今後一定の来館があると考えている。

委員長

資料4について質問、確認しておきたいことはあるか。

副委員長

経櫃は何て読むのか。

学芸課長

きょうびつと読む。お経を入れる箱のようなもの。柏崎市の物部神社から預かったもの。

委員A

資料3のところでは人数を教えていただいたが、もう一度聞かせてほしい。

経営企画課長

これから言う数字は発券人数、来館者とほぼイコールの人数。

春展が6,357人、夏展が7,032人、秋展は発券でなく受付のカウントで4,183人。

委員C

新聞の掲載が少ないとのことだが、新聞掲載のイメージはどんなものか。

学芸課長

地元の長岡新聞で定期的にコラム欄があり掲載していたがなくなった。

委員C

美術展とは博物館の紹介はあるが、そういうものではないということか。

学芸課長

そのとおりである。

委員B

自ら何かしようということここでここにあるものかと思うが、これはどういうものか。

学芸課長

今までも地域史研究ネットワークで登録団体にメールで月1回程度送付していたが、今後このニュースレターを電子媒体として送ることとした。少し時期を遅らせてHPでも公開する予定。15日付で発行した。

委員B

今までよりもうまくすれば見てくれる人がふえるということか。

学芸課長

そのとおりである。内容的にも一般の人が読んでもらいやすいようにしている。

委員長

ニュースレターというものは苦しくても定期的に出すことが大事。

委員D

学校団体の出前授業が減っている。年度途中だが、やはり学校の受け入れとか出前授業は学校事情もあり少なくなっているのか。

事務局

今現在の予約も含めた数は小学校が108、中高大特支が52、その他が140となっている。小学校に関して例年、この冬休みに申込が増える傾向がある。昨年度でおよそ10～15件くらい。出前授業も同様。

委員B

回数のわりに人数が増えている。

事務局

団体もそのような傾向がある。理由は、県外の団体が大量で来るため。文京区や足立区の学校が魚沼に移動教室で来てその間に来館するため。

委員長

4の体験授業についてはもう少しがんばりましょうということか。

事務局

こちらとしては、団体の来館がなく、体が開いていれば伺いたい、なかなか呼んでいただけない。

副委員長

マンネリになってきているところもある。

委員C

先週留学生と一緒に来館した際に子供たちがみれば大変勉強になると話していた。おそらく長岡の学校は多く来ていると思うが、県内ではどのあたりの学校がきているのか。

事務局

数値的には、やはり中越が多い。コロナ禍は逆に上越や下越が多かった。中越のおよそ40km未満、来館に1時間以内の学校が圧倒的に多い。佐渡が意外と多く、修学旅行で来館している。

委員長

他にご意見はないか。

続いて資料5について館から説明をお願いしたい。

事務局

資料5について、総括は後にして、まず収集・保管から説明する。データベースはすでに4万8000件以上の資料情報を登録済みで、そのうち約8割弱を公開している状況。権利の関係から登録済みのデータすべてを公開できるわけではない。現在評価指標としてデータベースの公開数が採用されているが、登録数を採用すべきではないかとの意見もあり、評価指標の見直しを検討したいと考えている。いずれにしてもマンパワーが不足している状況であり、未整備資料がまだたくさんあるが、登録や公開を今後どのように進めていくかが非常に大きな課題となっている。

続いて収蔵庫不足の問題について、この問題は当館だけではなくて、全国的に課題となっている問題である。今年の7月に奈良県知事が、奈良県立民族博物館の保存資料について廃棄も検討という衝撃的な発言をされた。ニュース等で取り上げられて、特に博物館界隈では非常に大きな話題となった。全国的に博物館、美術館の収蔵庫不足の問題は、年々深刻さを増しているのが現状。他県では民具について例えば廃校を利用して保管をするなど、いろいろ苦慮しながら対応している状況と聞いているが、廃校を利用すると、例えば夏場の高温、湿度の管理ができないという問題がある。保管の環境が非常に厳しく収蔵品の劣化や虫害が懸念される。一朝一夕で解決できる問題ではない。一番いいのは収蔵庫の増設であるが、膨大な予算が必要であるため、当県では難しい状況。全国的な課題ということで、他県の事例も情報収集しながら改善について検討を進めていきたいと考えている。

続いて常設展示のLED化について、蛍光灯の製造が2027年末、もう3年後には製造が禁止されるということが決定されており、照明のLED化は喫緊の課題。これまでも予算要望してきたところだが、常設展示のLED化を図るだけでも約1億。館全体だと2億のお金が必要のため、なかなか実現できていない。現在文化課と相談し次の2月県議会の補正予算で何とか予算要求することを調整している。これについて文化課から何かあるか。

文化課課長補佐

補正予算では全額要求をしているが、全体の調整の中で決まっていく。

事務局

全県的な問題であり、例えば教育庁だと、体育館の水銀灯は昨年度LED化したようだが、教室等はまだ。残りを順次、27年までには全部終わらせる計画で進めていると聞いている。

委員B

LEDにすると圧倒的に蛍光灯よりも寿命が伸び、交換の頻度が減る。そのあたりの予算が減らせる。

事務局

当然LEDになれば、交換頻度を減らせるし電力消費量が全然違うので、予算削減に繋がる。

長い目で見れば予算削減に繋がるが、当座のお金を工面するところがやはり課題。

続いて企画展示について、来年度も引き続き企画展2回、テーマ展2回予定。来年度は春と秋が企画展、

夏と冬がテーマ展となる予定。春の企画展が「きらめく古代ガラスの軌跡」、夏のテーマ展示は来年が終戦から80年の節目に当たるということで「戦後80年銃後の暮らし」と題し、特に銃後、つまり国内にいる国民の生活暮らしに着目した展示をしたいと計画している。秋は企画展で飴展を計画している。県内には飴の老舗が非常に多い。例えば、上越には、高橋孫左衛門という店があり、江戸時代に十返舎一九が買いに来た。夏目漱石の坊ちゃんの中に笹飴が出てくるが、それは高橋孫左衛門の飴である。それ以外にも県内には、飴の老舗が非常に多くあり、飴という新潟県にとって身近な食品をテーマにいろいろと展示を考えている。

委員C

長岡の飴最中もある。

事務局

冬は縮展。来年度全国重要無形文化財保持団体協議会の全国大会が南魚沼市と小千谷市で開催されるが、無形文化財の秀作展を当館の企画展示室で展示することになった。これと併せて、新潟県の重要文化財、ユネスコの無形文化遺産にも登録されている越後上布と小千谷縮を題材にテーマ展を開催する。

今後も県民のニーズやタイムリーなテーマを意識して、創意工夫をしながら新たな研究成果を盛り込んだような企画展テーマ展を計画したい。

続いて調査研究について、お配りしている「れきはく通信」を御覧いただきたい。日々の研究活動を県民の皆さんに還元するための手法をいろいろ考え開始。少しでも博物館を身近に感じていただけたらということで、配信をする。第1号の発行日が12月15日で、大河ドラマ「光る君へ」の最終回の日であり、タイムリーに取り上げて、親しみやすく気軽に読める内容となっている。後でご覧いただきたい。

続いて学校教育について、なかなか学校の来館が少なく苦勞している。例年4月に各学校向けに利用案内を配布しているが、今年度から学習内容に合わせた利用方法を具体的に提案するような広報もやっていきたいと考えている。総括にも載せてあるが、小学校3年生の「昔の暮らしと道具」という学習が始まる時期に合わせて、今年度は10月に担任向けに案内を配布した。

出前授業について、人員的にも予算的にも限りがあり、増やしていくのはなかなか難しい状況であるが、来館困難な学校を優先し、できるだけ出かけていきたい。新たな取り組みについても今後検討していきたいと考えている。

体験活動について、引き続き新規プログラムの導入を進めて、高い満足度の維持に努めていく。

社会教育について、出前講座については非常にたくさんの市町村、公民館からご依頼をいただいている。予算的に厳しい状況があり、今年度から依頼される公民館、市町村等の団体に派遣する職員の出張旅費を負担していただくよう協力をお願いしている。

委員長

予算状況が厳しいというのは具体的には出張旅費か。

事務局

全体的に厳しい。出張旅費も厳しい。昨年度までは全部我々持ち出しで行っていたが、旅費だけ申し訳ないが負担してもらえようをお願いしている。

委員長

従前なら受け入れ側の公民館からすればただで来てくれる。今年度は、迎える側が職員出張旅費を出さないといけないということになる。

事務局

公民館等も他の生涯学習講座等では講師にお金を払っている講座もあるので、大変恐縮だが旅費だけは依頼側に負担をお願いしている。来館が難しい地域を特に配慮しながら引き続き、取り組んでいきたいと考えている。

連携について、先ほど紹介した「れきはく通信」は新潟県地域史研究ネットワーク事業の1つとして取り組んでいるものである。県内における歴史研究のセンター的役割を当館が引き続き果たしていくとともに、新たな連携も模索していきたいと考えている。

続いて情報発信について、今後SNS活用をより意識していく必要があると考えている。引き続き当館の魅力の発信に努めていきたい。

最後に総括について、学校団体来館者が減少しているということで、コメントをいただいている。新型コロナにより、これまで県外を修学旅行先としていた中学校、高校が、コロナの関係で県外に行けないということで当館を選んでいただいた事情がある。それが今、新型コロナの5類移行により、元どおり県外になっている状況。学校利用を増やしてもらおう試みとして、先ほども説明した学習内容に合わせた利用方法を具体的に提案するなど今年度から始めた。

また、先ほど話が出たが、東京都、群馬県の学校の利用が増えている。特に文京区や足立区の学校が、魚沼市で自然体験をするため来ている。その関係で魚沼市の紹介により来館している。勾玉づくりや火おこしなどの体験ができるということで、最近申し込みが非常に多くなってきている。県外向けのPRも積極的にやっていきたいと考えている。

インバウンド関係でいうと、今年県の観光協会から長岡花火や片貝花火、柏崎花火と併せて、夜は花火、昼間に来館するツアーができないか話をいただいた。例えば、体験コーナーで鎧の着付けや十二単の着付け体験、投扇興など、外国人は体験型のものが好まれることから、今ある館のリソースを活用できないかと提案したが、今年度は実現しなかった。また、新潟東港にクルーズ船がつくようになり、外国のお客さんも結構多い。クルーズ船内で宿泊をし、朝、港に着いて、ツアーにバスで出発し県内を回り、夕方船に戻るということが多いが、候補としてどうだろうかと考えている。クルーズ船を担当している県港湾振興課と相談し、お客様を誘客できないかと考えている。

若年層のニーズの把握ということについて、日曜日の体験プログラムの際のアンケートや聞き取りを行っている。他には毎年9月に10名程度大学生を博物館実習に受け入れている。高等学校文化連盟の新聞制作技術講習会を今年度、当館で開催し、参加した新潟中央高校の新聞部が夏の企画展の内覧会でテレビ、新潟日報などのプロにまじり一緒に取材をするという機会があった。そういった機会をとらえて大学生、高校生と情報交換をし、若年層のニーズ把握に努めていきたいと考えている。

現在、予算、職員が減らされ、館として状況は厳しいが、従前通りのままではなかなかやっていくのは困難とのご指摘があり、館としても優先順位をつけながら取り組み、利用者数の増加、満足度の維持向上を図っていきたい。

委員長

資料5について質問、確認しておきたいことはあるか。

委員A

連携だけ「B」の評価である。新たな連携を模索とあるが、新しい連携先等、具体的な取組はあるか。

事務局

地域史研究ネットワークとして「れきはく通信」を行った。地域団体活動への参画については、件数で目標を満たしていないのが現状。

経営企画課長

新しいところはいくつかある。地域のお茶の団体、われもこう、夏のテーマ展に合わせて文弥人形の上映会を行ったこと等いくつか新しいところがある。カウントの仕方にもよるが14、5くらいはいいのではないかと考えている。

委員A

総括のところで説明があった文京区、足立区は魚沼市の紹介でここにきているのか。

事務局

もともと雨天案で来館していたことが多かったが、施設もよいし体験もできるということで来館が増えている。文京区は令和4年度に16校、昨年度17校、今年度も16校である。評判がいい。

委員A

まさに地域連携といえる。口コミで広がった。

委員長

スペアで始まったものが広がった。県の旅行先もそれまでは奈良・京都だったものが県内になり、5類移行後に戻ったのも、いわゆるスペアとして来館していた。

副委員長

今話題になったことをここに書いた方がよい。

委員C

文京区、足立区からこれだけ利用されているということを県内の学校は知っているのか。県外で注目されている施設を地元が使わないのはもったいないというアピールの仕方はできないのか。

事務局

明確に文面には書いていないが、様々な会合やPRの場で話をさせてもらっている。しかし、県外の団体が増えると県内の団体の受入が難しくなる。

委員A

先ほどの県外の団体が来た時に皆さんは大変な思いをするのか。

事務局

昼ご飯が食べられなくなることもある。160人の受入やスケジュールの関係でそうなることがある。

館長

基本的には3人体制で行っている。申し込みの段階で調整しないといけない。

委員D

話が来たらやるということなのか。連携として決まっているのか。

事務局

文京区だと4月末から5月初めに教職員が視察に来館する。その後、魚沼市を仲介にして申込がある。

委員C

定番化しているのか。

事務局

ここ数年同じ数のため、しているといえると思う。

事務局

文京区と魚沼市は協定を結んでいる。文京区の保養施設が魚沼市にある。

館長

好事例であるので、40km圏内の学校に提案していきたい。

委員A

クルーズ船についてはかなり前から話はあった。新潟からは遠い。帰る時間が決まっています。寺泊までは来るがここまでは厳しい。海外の方は長時間滞在はなかなかしないこともある。

委員長

うちはじっくり構えてくれるインバウンドを対象にしたらいいいのでは。

館長

JICAが来たことがあった。どういう目的できたかはっきりしないが、興味はあると考える。

委員長

新潟大学の留学生が何かできないか。留学生に来館してもらい、ロコミでひろげてもらうようにする。

委員C

先日留学生と来館した際に、熱心に音声ガイドを聞いていた。そのようなところをねらっていくこともいいのではないか。館の利益だけでなく新潟県の利益のものなる。

館長

当館は縄文の研究については進んでいると考える。外国の方にもインパクトはある。

委員A

縄文ツアーをやるなど工夫できる。

委員B

そういった方々がSNSにハッシュタグをつけて広げてもらうとよい。

館長

少しずつ増えてきている。

委員長

その流れを加速させていきましょう。

館長

ひと月平均で10人は来ている。世界各国から来ている。

課長補佐

カルチャーツーリズムという刊行物で地域の文化財等を発信している。近々長岡地域を紹介する予定。歴史博物館も含まれている。予算要求中だが、来年度はそれをインバウンドに対応するように準備を進めている。

委員長

その長岡版はまだできていないのか。

課長補佐

2月くらいにできる予定。

委員B

LEDについて、予算が付いたらどのようなスケジュールで行われるのか。

事務局

翌年度に繰り越し、7年度にすべて行うことになる。

委員B

企画展示の飴展では飴は売めるのか。

事務局

ショップが開けば売ることができると思う。

委員B

企画展を見て買いたいと思うのでは。

委員D

資料から離れてしまうが、光熱費が上がっていると思うが、運営の方を圧迫することはないのか。

館長

苦しい状況。工夫しながら何とかやっている。

経営企画課長

日々のキャッシュが厳しい。補正予算は後から来るため、それまでどうやって進めていけばよいか日々考えている。

委員C

日本酒をテーマとして企画展をすることはあるか。

学芸課長

酒に関する企画書はあるが採用されていない。

委員長

企画展を決めるのは誰か。

学芸課長

企画展会議で各研究員が作った企画書からコンペ形式で決まっていく。お酒に関する企画書も出されてはいるが、採用されなかった。

酒は米からできる。展示の米づくりに直結しているが、酒に関する展示はない。それを補完する形でいずればやらなければいけない企画であると思う。日本酒だけでなく、ワインやビールも新潟発祥なので洋酒でもできる。

副委員長

SNSについて、見られているのはyoutubeとtiktokが多い。それを活用するとよいと思う。

れきはく通信について、カットがほしい。絵や写真等を入れると印象が違う。

委員長

以上で協議を終了する。次回は第1回検討会となる。追って事務局から日程をお願いしたい。本日の会を終了する。

令和6年度第2回新潟県立歴史博物館評価委員会 次 第

令和7年5月29日（木）

14:00～16:00

県立歴史博物館会議室

1 開 会

2 議 事

- (1) 令和6年度評価について
- (2) 執筆者分担協議
- (3) 評価指標の変更について

3 閉会

○配付資料

【資料1】令和6年度活動評価表

【資料2】評価指標の変更について

新潟県立歴史博物館運営方針(令和5年度～令和9年度) 評価指標の変更について

機能	取組分野	活動方針	主な実現方策	評価指標		評価指標(変更案)	
				項目	目標値(R9)	項目	目標値(R9)
収集・保管	収集・保管	<ul style="list-style-type: none"> 本県の歴史を明らかにするために欠かすことのできない資料の収集・整理に努めるとともに、そのデータ化を推し進める。 良好な資料保存環境を維持する。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料の収集の継続と収集資料の整理を推進する。 IPMによる環境管理を継続する。 	収蔵資料目録の刊行準備	1目録		
				データベース公開数	300件以上	収蔵資料破損	0件
展示	常設展示	<ul style="list-style-type: none"> 設備・機器・資料の適切な管理に努め、良好な見学環境を維持する。 常設展示の十分な活用を推し進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常の適切な維持管理と定期的な資料更新を継続する。 より柔軟な展示と活用方法の工夫に努める。 	新規展示試行回数	1件以上		
				ワンポイント解説	500人		
	企画展示	<ul style="list-style-type: none"> 調査研究の反映や収蔵資料の活用によって魅力ある企画展を実施する。 集客を意識し、県民の関心を反映した企画展示に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 年4回程度の企画展の実施を目標とする。 入場者の満足度を高める。 	展示ジャンル数	3以上		
				満足度	90%以上		
調査・研究	調査・研究	<ul style="list-style-type: none"> 本県の歴史系博物館の拠点として、質の向上を目指す。 館活動の根幹である調査研究の成果の県民への還元を努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合・個別研究費などを有効に活用した研究活動を推進し、その成果を県民に還元する。 講座参加者の満足度を高める。 	外部研究費取得件数	6件		
				学会発表等件数	11回以上		
				論文等執筆件数	55件以上		
教育・普及	学校教育	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育に一層活用される博物館を目指す。 新潟県民としての自覚と誇りを持つ教育に貢献する。 館内及び館外活動の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育機関への施設利用の周知。 体験学習・体験活動の新たなプログラムの開発・導入に努める。 	県内小学校利用率	30%	県内小学校利用率	25%
				体験活動の新プログラム導入件数	1件以上		
				体験コーナー参加者満足度	90%		
	社会教育	<ul style="list-style-type: none"> 県民の知識・教養を高め、県民が豊かな社会生活を営むための機会や情報を提供する。 館内及び館外での活動の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会教育機関との連携に努める。 館内講座・出前講座を継続する。 ボランティアの受入の推進。 	出前講座の参加者満足度	90%		
				館員の講座・講演会の参加者満足度	90%		
				ボランティアの活動延人数	300人		
連携	学術面の連携	<ul style="list-style-type: none"> 県内各地の歴史・文化的価値の再発見と活用を支援する。 幅広い団体とのネットワークを強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> 新潟県の中核機関として、地域史研究や資料保存活動を推進する。 	地域史研究ネットワーク事業数	2件以上		
	地域づくりに向けた連携	<ul style="list-style-type: none"> 歴史を通じた県内各地の地域づくりに貢献する。 近隣の施設や様々な団体との連携を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種団体との事業共催等による連携を模索する。 	地域団体の活動への参画件数	15件		
情報発信	情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 当館の活動について、県民認知度を高める。 本県の歴史・文化的魅力を県外・海外にアピールすることで、交流人口の増大への寄与を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> リピーターや新規来館者の拡大に向けた広報の展開。 ITやマスコミを活用した情報発信の充実を図る。 県外客誘致のための広報に努める。 	新聞・雑誌・テレビ等に報道掲載された件数	200/100/150件	新聞・雑誌・テレビ等に報道掲載された件数	160/100/120件
				館ホームページへのアクセス件数	100,000件	館ホームページへのアクセス件数	75,000件
						SNSフォロワー数	20,000
管理運営	管理運営	<ul style="list-style-type: none"> 運営方針を館職員で共有し、方針を意識しながら博物館活動を進める。 目標の実現に向けた効率的な運営を行う。 来館者への安全・安心の提供に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価・外部評価の実施。 評価結果の的確な反映によるPDCAサイクルの確立。 	全体収支比率	(5%)		
				(評価指標の達成率)	(100%)		

注1) 評価指標の目標値は、館活動に投入されている現在のリソース(予算・人員等)が、計画期間において維持されることを前提とする。

注2) 活動の評価にあたっては、その内容面を含めて、博物館の使命に照らして多面的に分析を行う。

新潟県立歴史博物館運営方針(令和5年度～令和9年度) 取組分野ごとの活動方針とその進捗管理

機能	取組分野	活動方針	主な実現方策	評価指標				
				項目	令和4年度	令和5年度	令和6年度	目標値(R9)
収集・保管	収集・保管	<ul style="list-style-type: none"> 本県の歴史を明らかにするために欠かすことのできない資料の収集・整理に努めるとともに、そのデータ化を推し進める。 良好な資料保存環境を維持する。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料の収集の継続と収集資料の整理を推進する。 IPMによる環境管理を継続する。 	収蔵資料目録の刊行準備	1目録	1目録	1目録	1目録
				データベース公開数	112	1,889件 (新規0件)	37件 (新規21件)	300件以上
				収蔵資料破損	0件	0件	0件	
展示	常設展示	<ul style="list-style-type: none"> 設備・機器・資料の適切な管理に努め、良好な見学環境を維持する。 常設展示の十分な活用を推し進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常の適切な維持管理と定期的な資料更新を継続する。 より柔軟な展示と活用方法の工夫に努める。 	新規展示試行回数		1件	2件	1件以上
				ワンポイント解説	676人	665人	805人	500人
	企画展示	<ul style="list-style-type: none"> 調査研究の反映や収蔵資料の活用によって魅力ある企画展を実施する。 集客を意識し、県民の関心を反映した企画展示に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 年4回程度の企画展の実施を目標とする。 入場者の満足度を高める。 	展示ジャンル数	3	3	3	3以上
				満足度	91%	93%	94%	90%以上
調査・研究	調査・研究	<ul style="list-style-type: none"> 本県の歴史系博物館の拠点として、質の向上を目指す。 館活動の根幹である調査研究の成果の県民への還元を努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合・個別研究費などを有効に活用した研究活動を推進し、その成果を県民に還元する。 講座参加者の満足度を高める。 	外部研究費取得件数	12件(6)	12件(7)	11件(6)	6件
				学会発表等件数	15回	16回	18回	11回以上
				論文等執筆件数	39件	57件	64件	55件以上
教育・普及	学校教育	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育に一層活用される博物館を目指す。 新潟県民としての自覚と誇りを持つ教育に貢献する。 館内及び館外活動の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育機関への施設利用の周知。 体験学習・体験活動の新たなプログラムの開発・導入に努める。 	県内小学校利用率	23%	23%	23%	30%
				体験活動の新プログラム導入件数	2件	2件	3件	1件以上
	社会教育	<ul style="list-style-type: none"> 県民の知識・教養を高め、県民が豊かな社会生活を営むための機会や情報を提供する。 館内及び館外での活動の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会教育機関との連携に努める。 館内講座・出前講座を継続する。 ボランティアの受入の推進。 	出前講座の参加者満足度	93%	97%	94%	90%
				館員の講座・講演会の参加者満足度	96%	95%	97%	90%
連携	学術面の連携	<ul style="list-style-type: none"> 県内各地の歴史・文化的価値の再発見と活用を支援する。 幅広い団体とのネットワークを強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> 新潟県の中核機関として、地域史研究や資料保存活動を推進する。 	地域史研究ネットワーク事業数	2件	1件	4件	2件以上
	地域づくりに向けた連携	<ul style="list-style-type: none"> 歴史を通じた県内各地の地域づくりに貢献する。 近隣の施設や様々な団体との連携を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種団体との事業共催等による連携を模索する。 	地域団体の活動への参画件数	9件	10件	15件	15件
情報発信	情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 当館の活動について、県民認知度を高める。 本県の歴史・文化的魅力を県外・海外にアピールすることで、交流人口の増大への寄与を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> リピーターや新規来館者の拡大に向けた広報の展開。 ITやマスコミを活用した情報発信の充実を図る。 県外客誘致のための広報に努める。 	新聞・雑誌・テレビ等に報道掲載された件数	211/110/ 200件	200/129/ 181件	163/104/ 111件	200/100/ 150件
				館ホームページへのアクセス件数	118,205件	110,625件	83,595件	100,000件
				SNSフォロワー数	17,371	17,944	18,659	
管理運営	管理運営	<ul style="list-style-type: none"> 運営方針を館職員で共有し、方針を意識しながら博物館活動を進める。 目標の実現に向けた効率的な運営を行う。 来館者への安全・安心の提供に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価・外部評価の実施。 評価結果の的確な反映によるPDCAサイクルの確立。 	全体収支比率	(3.5%)	(5.3%)	(3.9%)	(5%)
				(評価指標の達成率)	(65%)	(85%)	(75%)	(100%)

注1) 評価指標の目標値は、館活動に投入されている現在のリソース(予算・人員等)が、計画期間において維持されることを前提とする。

注2) 活動の評価にあたっては、その内容面を含めて、博物館の使命に照らして多面的に分析を行う。

令和 6 年度第 2 回評価委員会 議事録（要旨）

令和 7 年 5 月 29 日
14 時～16 時
歴史博物館会議室

出席者

宍戸委員長、金山委員、内藤委員、小林委員、湯浅委員
文化課：廣井課長補佐、新田係長、大石主事
歴史博物館：小原館長、山田副館長、宮尾学芸課長、荒木経営企画課長、松谷専門研究員

事務局

これより令和 6 年度第 2 回評価委員会を開催する。
議案にもあるように、令和 6 年度の活動評価及び評価指標の変更について、審議をお願いしたい。
なお、山本副委員長は、本日所用により欠席ということで連絡をいただいている。
初めに県文化課課長補佐が挨拶申し上げる。

文化課課長補佐

令和 6 年度の第 2 回新潟県立歴史博物館評価委員会の開催にあたりまして一言ご挨拶申し上げる。

日頃より本県の博物館行政にご理解ご尽力を賜り感謝を申し上げる。この間の県の文化行政のトピックスとして、令和 7 年 3 月に県の最上位計画である総合計画をここにおられる宍戸先生の大変なご尽力もあり策定をさせていただいた。その中の項目として、「文化を通じた豊かな生活の実現」の中に文化施設について記載しており、文化施設が県民の文化活動の場として、また、文化に触れ親しむ場として積極的に活用されるよう利用環境の充実や魅力ある展示等の開催に取り組むと明記させていただいている。

また、文化振興基本計画というものも、いろいろな方のご意見を頂戴しながら 3 月にまとめた。16 ページを開くと、施策の展開ということで柱を 4 つ立てている。文化に親しむ環境をつくるという柱を一つ立てており、21 ページの施策の方向性（4）で博物館、美術館と県立文化施設の機能の充実と明記している。こうした基本計画に基づいて歴史博物館をはじめとする県立文化施設機能の充実、それから文化観光への積極的な活用をうたっている。そうしたことをふまえ、県内外からも多くの方が訪れて県の歴史に関心と理解を深めてもらえるよう館と協力しながら魅力向上、情報発信等に取り組んでいきたいと考えている。

終わりに本県の博物館のますますの発展のために運営のあり方などについて委員の皆様から忌憚ないご意見をいただけるようお願い申し上げ挨拶とする。

事務局

続きまして館長小原が挨拶申し上げます。

館長

当委員会におきましてかつて観覧料の徴収方法の見直しについてご意見を頂戴いたしました。それに基づいて令和6年度の夏の企画展示から企画展のチケットをもって常設展も観覧できるように改定をいたしました。本年度に入り、その効果が本格化しておりまして、4月1日から5月28日の約2ヶ月間で手元の速報値で常設展1200名、企画展で1400名観覧者が増加している。伸び率で換算すると常設展、企画展あわせて約30%に近い伸び率になっている。改めて委員の皆様へ感謝したい。

本日は令和6年度の評価に加え、今現在の実状や環境変化を踏まえ、一部評価指標の見直しを行いたいと考えており、皆様からご意見を頂戴したい。引き続き今後の博物館経営に生かしていきたいと考えており、専門の立場から率直なご意見、ご提案、評価をいただきたい。

事務局

ここからの進行は宍戸委員長にお願いする。

委員長

議事について(1)は評価、(2)は執筆者分担、(3)が評価指標の変更となっている。これについて、(3)の評価指標の変更を(1)の6年度評価と合わせて説明してもらった上で評価を行い、かつ、分担を決めたい。

活動評価表について、例年、総括は後にし、3ページ目の「収集・保管」から一つずつ説明した後に質疑応答、委員としての評価を通しでやりたいと考えている。総括まで終わった後、どのパートをどの委員が書くかということで議論を進めていきたい。

「収集・保管」からお願いする。

学芸課長

収集保管については評価指標の変更を考えている。その点も含め説明する。

取組方針をもとに活動を行っている。取組方針の前者にあたるものが2項目評価指標に上がっている。一つ目が目録の刊行、もう一方としてデータベースの公開がある。令和5年度に対して6年度が大幅に減っている。このように数が増減する理由について説明する。現在公開しているデータベースの基本になっているのは当館の所蔵資料管理システムである。データベースの登録は博物館への収集、収蔵という業務の一連の中で行っている関係で、受け入れ資料は必ず登録されている。資料寄贈や採集等博物館に資料が入るのは登録されているが、それに合わせて整理が進むかという過程の中で新たな知見が得られた場合や従来のものに誤りがあった場合に更新という形で内容の修正を行っている。令和5年度は蓄積していた整理、研究の成果を反映させるタイミングが合ったため、

1889件となった。6年度は新たに公開したものと若干の修正を加えた数値となっている。年度単位の活動指標とみると増減が激しく、かつ、現在目標が300と設定されているが、目標に対して実際に行われている整理の過程で必ずしも新しいことが得られるとは限らない。公開されている資料数は全体の77%。公開していないものは、当館の特殊事情とも言えるが、収蔵資料の一部に他の博物館のレプリカがある。資料として登録されているが、公開する意義が認められないため、非公開となっている。資料の中には個人情報が含まれているものがあり、非公開になっているものがある。このような資料は改めて公開するのは難しいという観点から、数値が大幅に増減するものは評価指標の目標としてはふさわしくないということ、実際に実務を遂行している立場から考えている。

一方で、取組方針の2本目の柱である、良好な資料保存環境の維持に関する評価指標が設定されていない。現在の史料環境を維持する上で3月まで生産され使用できていた文化財に付く虫やカビを除去する薬剤が生産中止、使用禁止となる。資料管理、環境維持に務める必然性が増す。そういう観点からIPM、総合的文化財防虫害管理システムにより積極的に関与し資料の毀損「0」を大きな目標に掲げる。通常このような指標で「0」を目標とするのは少し唐突な感じはあるが、資料毀損が「0」であることが将来に文化財を伝えるためには重要なことであるため、評価指標として採用したいと考えている。

委員長

IPMとは何の略か。

学芸課長

総合的文化財虫害管理のこと。人的に目視点検、その後、毀損のもととなるような事態が確認された場合、除去、清掃等の環境の整備、殺虫剤や薬剤を組み合わせたりしながら行っていくが、カビを除去するものがなくなる。カビを殺すことができなくなるため、カビが活性化することを防ぐ、具体的には温度と湿度を一定にし、日々収蔵庫の環境をモニタリングして維持する。空調などが安定的に機能していなければならないが、課題にもあるように施設の老朽化により機器の故障が頻発している。修繕に要する予算が十全に準備されておらず、いつ何時今維持している状況が保てなくなるか分からない。そのような状況も踏まえつつ極力そのような事態にならないよう目配りをして資料を管理することがIPMの理念である。

委員A

過去にもデータベースのことが指標として適切か話題となり、変わるものとしてはいかと考えるが、話が出るたびにデータベースは残してきたこともあり、簡単に変えまうと言われると考えるところがある。話を聞いている分には理解できると考える。

委員B

データベースが指標になじまないという理由は理解できる。一方で0件とすることは評価の妥当性としてはモヤモヤするところがある。取組方針との整合性の中でどのようなものがよいか考えると難しいところがある。

委員長

確かに「0」というと当たり前と考える見方もあるが、従前よりも薬が使えなくなった等置かれている環境は館にとって厳しくなる。「0」にするにはそれ相応の努力、今までとは違う努力をしていく必要がある。当たり前ではなく、「0」にすることが究極の目標である。例えば、良好な資料保存環境維持のための研修を〇回受けましたといっても資料を壊してしまっただけでは意味がない。壊さない、破損しないということが究極の目的として意味を持つことになる。

データベースの公開数から収蔵資料破損0件とすることでよいか。

(了承)

委員A

0件ということで、報告しなければ、ばれなければいいだろうという形にはしないでいただきたい。隠すことが正義とならないようにしていただきたい。

委員長

館の皆様を信頼している。包み隠さず報告していただきたい。

自己評価は評価できるとあるが、委員会としては評価できるでよいか。

(了承)

委員長

「常設展示」について説明をお願いしたい。

学芸課長

新規展示試行数は単に展示をするだけでなく、展示するときには展示の仕方を工夫するという事、新しい方法を模索するという事である。

ワンポイント解説は毎土日に行っている。目標人数に対して実績が805人と大きく上回っている。テーマ展開催にあたり、テーマ展に関わる解説を行うことが増えている。昨年度は秋に中央日本4県連携事業として行った展示、冬の民俗学の展示があり、積極的にテーマ展示を使った解説により、通常の常設展示解説時の数より多く設定することができ、新規の参加者を動員することができた。この数字について、ワンポイント解説は土日に限定されているため、大幅に増やす、毎年右肩上がりに増やすことは難しいが、テーマ展との連携等で工夫をして人数を増やすように努めている。収集・保管と同様に老朽化により環境維持が難しいという課題がある。今後ますます施設管理の維持が難しくなってくるということが課題である。

委員C

昨年度課題となっていたLED化はどうなっているか。

副館長

予算が付き、常設展示室については今年度中に実施する。

学芸課長

常設展示の4部屋あるうち、新潟県のあゆみ、雪とくらし、縄文文化を探るについては

LED 化は終了し、米づくりと縄文人の世界が残っている。現在調査を行っていて早急に契約を結んで実施するが、年度いっぱいにかかると思われる。通常の照明でなく、ジオラマは演出照明であるため、機器の選定まで調査を行い決定し、発注してから機器の納品だけで最低3ヶ月かかる。昨今の経済事情で部品の調達が難しいとなると5～6ヶ月ということも考えられる。

委員 C

課題に理想的な温湿度管理が難しくなってきたとあるが、温湿度管理調査のための温度計みたいなものも老朽化しているのか。

学芸課長

そういう機器に関しては、随時交換、更新している。それを新調するときにも予算がないというような状態がずっと続いている。しかし、それがないと、そもそものモニタリングができないので、適宜、更新をしている。

委員 B

「収集・保管」のところでも出ているが、施設設備の老朽化が課題として取り上げられている。もちろん予算のこともあり、すぐに、対応が難しい問題もあると思うが、最低限の部分については、補修等をし、影響が大きくなならない、軽微なものになるように、食い止める努力をされているという理解でよろしいか。

学芸課長

これは学芸課だけの問題でなく、館、建物の管理運営全体に関わる問題であり、故障して修理までに時間がかかり、その管理が難しい時期が発生することはある。しかし、その期間も人的にドアの開け閉め等をし、温湿度の変動を抑えられるよう努めている。また、ケースの中の環境で不全があった場合は、ケースの開け閉め等、人為的に空気の入替えを行う等で対応している。

委員 C

県民の財産であるため、いい形で運営できるようにしていただきたい。

館長

そういった長期的な展望については文化課とも共有できている。ただし、予算の問題であり、予算がうまく取れるかどうかについては確定的ではない。何が必要かについては協議している。

委員長

館の自己評価は評価できるとあり、確かに老朽化の課題等多々あるが、できる範囲、まさに所与の環境での努力は見受けられるので、当委員会としても評価できるでよいか。

(了承)

委員長

企画展示について引き続き説明をお願いしたい。

学芸課長

企画展示室で行っている展示に関して、内容が偏らないようにジャンルを広く総合的に行う、もしくは、個別であっても年間の中で特化したテーマを重ならないように工夫をして行っている。毎年、企画展、テーマ展合わせて4回の展示を行っており、その中で少なくとも3分野、歴史・民族・考古のどれかが中心になるようなテーマ展示を行っている。

また、満足度に関しては、94%前後の満足の回答を得ている。また、観覧者数について、なかなか人数が増えないところもあるが、来館されたお客様からは、非常に高い評価をいただいている。

ここでもやはり、施設の老朽化が課題になっている。特に企画展示室に関しては文化庁の認定する重要文化財等公開承認施設だが、施設上の問題が生じていて、文化庁からモニタリングを継続するように指示されている。

委員長

ただいまの説明について何か質問はあるか。

委員 D

企画展示ジャンル数、歴史・民族・考古の他にジャンルはあるのか。

学芸課長

美術・工芸・芸術が歴史博物館で設定しようと思うが、歴史の中に工芸や美術関係のものも含まれている。昨年度に関して言えば、春の企画展として「動物たちの浮世絵」という巡回展、これは私どもが直接資料選定等を行っているわけではないが、内容的には美術や芸術と関係するような内容もある。

委員 D

県立の美術館でやってもいいような内容のものであった。

学芸課長

切り口として、浮世絵の中で描かれている人と動物との関わりの歴史的な推移を紹介しており、歴史博物館が行うべきテーマの展示と考えている。

委員 D

課題の(1)について、経費不足のため、調査研究成果を十二分に反映できないという記載があるが、具体的にはどういうことか。

学芸課長

調査研究を進めている中で、列品物として重要文化財や国宝を選定することがあるが、企画展事業費の額が非常に小さくなっている関係で、運搬委託をする経費が捻出できない。国宝重要文化財等、指定品に関しては文化庁の通達があり、その中でエアサッシャーを使うとか、荷室が温湿度を管理できるとか、或いは取り扱いをする委託業者が講習を受けているとか、いくつか条件があり、そのような業者を選定すると相応の金額がかかる。そうすると、展示のストーリーを作った際に、このような展示物を並べれば、十二分に説

明ができると考えても、その中のいくつかは指定品なので諦めるということがある。所蔵機関との交渉で他の制約があるから無理のため、結果だめになるものもあるが、最初から予算の枠組みで厳しい。展示を行う際に図録を作ることが多いが、印刷経費等も不足した結果、まとまった内容の説明や研究成果を十二分に反映させたもの、網羅的に説明することが難しいという場面が出てくる。その点に関しては、当館研究紀要は学術成果をストレートに発表する媒体により一部、紹介・報告しているところだが、展示というメディアを使ってするときには企画展の予算がない、足りないので、難しくなっているということである。

委員 D

課題の (3) も気になる。要するに、もっとお客さんを集めたいがお金がなくてなかなかPRができなということか。

学芸課長

予算もそうだが、特に平成 31 年度末をもって当館の広報担当者が削減された。現在広報の専従担当がいなくなっている状況で四苦八苦をしている状況。現在、広報活動でSNS等を使用する際に、スキル技術能力は専門的な分野になる。片手間でなかなかやれる範疇のものではない中で、何とか綱渡りのようにやっているが、どうしても発信力が他館と比べると見劣りすることもある。もう1つ、企画立案していく中で、現在、テーマ展と呼んでいる、企画展示室を行っている展示はほぼ予算ゼロに近い状態で行っている。やる内容は人海戦術で賄うような場面が増えてくるので、どうしても展示としてもう少し洗練されたデザインを採用するところまで目が行き届かないということが起こっている。

委員 D

テーマ展がいつまで続けるか毎回心配だという声がある。予算、人力的な面も含めて、そういう課題を聞いているが、その中で相当頑張っている。毎回企画展を見ているが、今のような苦労がある中でよく頑張っているという思い。

学芸課長

正直なところ、ポスターチラシも印刷会社やデザイナーに発注するお金がないため、自分たちでデザインしている。これ以上我々の自助努力でというのは難しいところにきているとご理解いただければと思う。

館長

とにかくいろいろと創意工夫を重ねながら努力している。テーマ展はそれぞれの研究者の、担当の思いが詰まっており魂が入っているすごく良い展示となっている。だが、担当としては、もうちょっと予算があれば、もっといい展示ができるという思いがある。そのせめぎ合いで葛藤しながら行っている。

委員長

広報担当が削られて 7 年ほど経ち、職員の皆さんが仕事の一部としてやっているというところだが、例えば、近代美術館や万代島美術館等、他の施設に、これは廣井補佐に聞いた方がいいと思うが、広報担当はいるか。

文化課課長補佐

広報単独で置いているところはなかなかないかと思う。

委員長

例えば、せっかく同じ施設をこの新潟県が持っているわけだから、1 人、文化課でもいいので置いて 3 館の広報担当をやるようにするといいのでは。

館長

委員長、技術面の課題もあるので私もそれを文化課に提案している。

委員長

技術を持っているということと、あと 3 館の連携もできる。館長も話しているのであれば、私もお勧めする。検討をお願いしたい。

委員 D

今、近代美術館で徳川將軍展の CM を打っているが、どうしてできるのか。

文化課課長補佐

展覧会が、マスコミとタッグを組み、要は一对一の出資のような形でやる例がほとんどである。マスコミが自分たちの事業のため、どんどん広報を打っていく。そうすればいいじゃないかということはあるが、県がやりたい展覧会と客が入る展覧会を持つてくるころのせめぎ合いで、どういう展覧会ならいいのかというところは葛藤としてある。学芸員がやりたい展覧会というのは実はそんなに儲けがない。マスコミものってこないところがあり、難しいところである。

委員 D

まだ始まっていないが、展覧会は料金の設定も特別で高いのか。

文化課課長補佐

1800 円と思う。前売りで 200 円安い。新潟県では 2000 円を超えることはないと思う。

委員長

それでは、自己評価では評価できるである。確かに数値から見ると減っているが企画展における満足度は、すばらしい数字を上げていると思うので、当委員会としても 評価できるでよいか。

(了承)

委員長

調査研究について説明をお願いします。

学芸課長

収集保管、常設展示、企画展示のアウトプットに関わる根幹をなしている部分がこの調査研究活動となる。先ほどのデータベースの更新についても、その整理内容というのは実質的にはこの調査研究活動に基づいている。その上で、部分的にはあるが博物館の研究成果を公開するという点を評価指標として挙げているのが、学会発表件数と論文等執筆件数になる。現在、それに加えて評価指標として、外部研究費の取得を挙げているが、これは当館が研究機関として、科学研究費補助金の申請をできる機関として認定されているので、それを踏まえて、外部から資金を入れられるような活動をして成果を上げている。内容的にはいずれも、指標として目標値に定めているものを上回っている。活動内容を十二分に指標も含めて、説明していると思う。

ただ一方で、やはり、この調査研究事業に関しても、外部資金に頼っている状況がずっと続いている。競争的資金の取得件数は現在確かに 11 件あるが、今後も維持できるものではなく今後件数が減ることもあるかと思う。それも踏まえて評価いただきたい。

委員長

私も同じ研究、大学に身を置くものとして言うによくやっている。新潟県立歴史博物館は何かこの職員だと必要以上に書かないと、居座りが悪くなるぐらい競争的環境があるのか。

確かに経費の多くを外部資金に依存しているのは大学も同じである。今日本の研究機関はまさに不当は別としてお金というのは現実的なことである。

結構頑張っているということも踏まえ、自己評価は評価できるであるが、本委員会における評価についても評価できるでよいか。

(了承)

委員長

続いて教育・普及についてお願いします。

事務局

こちらも、評価指標の変更も含めて説明する。まず活動評価表について、令和 9 年度までに 30%という目標になっているが、前回からも話を出しているが、コロナ禍で大きく状況が変わってきている。具体的な話をすると、令和 2、3 年度は県外に修学旅行に出かけた学校が移動制限により、県内への修学旅行に変更したため、若干増えている。県内の学校が県内に来た状況が実際にあった。そのため、大幅な変化がなく 30%を少し切る程度を保っていた。

ただ、令和 4 年度及び 5 類の移行となった令和 5 年度以降は利用率が 23%あたりを推移している。学校の関係者等に聞くと、コロナ禍を経て、バス、輸送費、燃料の高騰、運転手不足からバスが使えない事態が多く出てきている。参考までに、令和 6 年度は、バスが取れないためのキャンセルが 4 件。今年度 4 月から 5 月の終わりまでの 2 ヶ月間で

でにバスの関係でキャンセルが3件、日程変更が4件ある。それだけバスを使えない状況になっていることをご理解いただきたい。

目標30%をどうすれば達成できるか考えてみたが、比較的来館しやすい距離、バス等を使って1時間以内と考え試算したところ、該当の市町村が、長岡市、三条市、柏崎市、小千谷市、見附市、燕市、出雲崎町、刈羽村となる。いずれも、それぞれの市町村の市役所、役場を基準にして40km未満というふうに考えた。その学校数が123校あり、すべての学校の来館があっても29%で30%に届かない。現在40km以上の上越、或いは新潟の学校、或いは佐渡の学校も幾つか来ているが、それらの学校をプラスしていかないと30%は厳しいという状況である。近年の動向、40km未満の学校と40km以上の学校の利用率の推移を見ると、令和元年は40km未満の学校利用数が123あったが、令和6年度は84まで落ちている。約7割ぐらいである。それだけ近隣の学校であっても来るのが厳しくなってきたという状態と考える。40km以上の学校については、令和元年度28に対して令和6年度で17となり、約6割に減っている。

以上のことから令和6年度は23%となっている。来年度以降30%の利用率にするためには、現在の新潟県全学校数423に対し129校必要となる。今後予想される県内小学校の来館数がおよそ90前後、出前授業がおよそ10前後であるため、100校前後になるだろうと予想される。30%を達成するためにはあと29校の利用が必要となり、厳しい数字である。

令和元年度が多い理由は、コロナ禍前ということもあり、1グループの人数を30人から40人とし多く受け入れた。ただ、コロナ禍以降は1グループの人数を減らしている。そのため、対応できる日程、スタッフのシフト等を考えると非常に難しい。以上のことから8割ぐらいの学校の来館で達成とさせていただくと、25%となり、県内小学校の利用率の目標を30%から25%に引き下げていきたい。25%であっても実はなかなか難しい。例年6～7月が繁忙期となる。我々スタッフが対応しているが、ご飯を食べるのが3時過ぎたということもあった。繁忙期は対応に追われている現状もご理解いただきたい。

体験プログラム新規導入件数は、実績3ということになっている。動物の浮世絵、秋のテーマ展に合わせた勾玉くだ玉、冬に雪道具体験をした。体験講座の参加者満足度も大変高くほぼ皆さんが満足していただいている。

自己評価としては、県内小学校利用率が30%を下回っているがやや評価できるにさせていただいた。

委員長

特に今回は評価指標に変えたい、数字を下げたいってことである。先ほどのようにデータベース公開から、収蔵破損ゼロっていう質を変えるのではなく、量を変えたい、目標を引き下げたということ。

副館長

補足としてもう 1 つ、小学校数でいうと県内の中で新潟市の小学校数が圧倒的に多い。他の地域はだんだん過疎化で、学校が統合されて少なくなっているが、新潟市は残っている。新潟市には市の歴史博物館があり、新潟市の学校はなかなか来館いただけない。その辺が結構ネックで増やしづらい。遠方で言うと、あと上越も同様に市博物館を持っており、郊外学習で活用するのは地元の博物館となり来館が難しいというのが現状。

委員 C

1 時間圏内のエリアの学校全部が来てくれたとしても、29%しかない。

委員長

確かにバスの運転手さんが集まらない、ガソリン代が値上がり、キャンセルが多発。もうすでにある環境として 40 km 未満で 123 校あるけど全部来たとしても 29%しかない。現状で今 8 割ぐらいだとこの数値は達成できない。だから引き下げさせてくださいということだが、筋としてはあまりよくない。指標は目標だから意味があり目標に達しそうもないから下げるというのは指標ではない。指標というのは、精神論が若干入るが歯を食いしばって目指すもの、その結果として達成できたかできないかであって、その歯を食いしばれないので下げるということに私には映った。県内小学校利用率を m% から n% とすると下げるだけではないかというそしりを受ける。質を変えていくとよい。例えば今は学校の利用率、これを、子供の数に変える。学校でなく子供、小学生数でカウントするというのも方法。

委員 A

来られないという学校が増えてくるとなると、行くしかないというところを考えなければいけない。出前授業を今やっているが、そのところに対応の仕方、ルールを考えていく必要があると思う。

委員 B

少子高齢化の中で、全体の子供の数の内訳としての利用者の子供の率だとか、例えば学校が統合等で少なくなっている状況があるので、同じ指標で目標を下げるっていうと皆さんが幾ら一生懸命やっても熱さにかけるじゃないかと言われてしまう心配がある。或いは、今の状況を子供数で当てはめてどんな変化が出てきているのか例えばその 40 km 圏内にある学校の児童数が、過去 5 年でどのくらい減っているのか割合どうなのか等を考えるのも一つの方法と考える。

委員長

学校数は減っていますから。

館長

これについて、目標設定したときはコロナ禍の特殊事情を踏まえての目標であった。それが大きく環境変わったことで目標値の引き下げも 1 つの理屈として論拠としてあった。ご指摘の通り来館児童数という検討も含め、何通りかやってみたので、今日のご意

見を踏まえ、もう1回検討させていただき、次回のときに示させていただきたい。従って目標が届いてないのでやや評価できるというようになるが、実質的な努力からみるとかなり善戦したというのが正直なところである。

委員長

いや、それは認める。おっしゃる通りだと思う。ただ一方で、この評価指標の変更については、差し戻しでお願いした上で、本委員会における評価としては、確かに努力はしたが、達しなかったということで、評価できるには出せないと思うので、やや評価というところを出したいがどうか。

(了承)

委員 C

令和6年度はバスが高くて来られない学校が4校あり、令和7年度はもうすでに3校ある。これは結局バスが使えなくて学習体験の場が子供たちから奪われているということになると思うが、この問題はどこが解決するのか。

委員長

学校教育、教育庁の学校教育課ですか。

文化課課長補佐

各学校の予算と思うので、多分その予算では足りなくなるとか、バスがそもそもないとなるとどうにもならないと考えるが。

委員長

県教育委員会、或いは市教育委員会ですか。

文化課課長補佐

小中学校なので、市町村単位になる。

委員長

確かに子供たちの現物を見るという教育機会が減っているってことも意味する。

委員 C

こんなに設備があるのに残念だなと思う。

委員長

廣井補佐、ぜひ、よろしくお願いします。

委員長

続いて社会教育の説明をお願いします。

事務局

まず、出前講座の参加者満足度ですが、非常にご好評いただいている。学芸員が調査研究で忙しい中で講演をした成果がこのように高い数字で表れていると考える。また、館内講座講演会についても非常に高い満足度である。3つ目ボランティア活動の延べ人数について、目標300人のところ463人である。ボランティア数が若干増えたということもあるが、コロナ禍を経て活動が本格化してきた。課題の出前講座について、旅費が館で捻出で

きない、予算が立てられないということで、先方負担になっている。そのため、遠方の地域はどうしてもお金がかかるため、申込の減少が懸念される。あと課題の 2 番目について、ボランティアの数は増えているが、ボランティアを回数多くされる方は決まってきた。また、中学生ボランティアのあり方について、一昨年は 0 人、昨年は 2 人。内容の検討をしていく必要があると考える。以上のことから自己評価については評価できるとした。

委員 D

課題の中学生ボランティアのあり方について、もう少し説明をお願いしたい。

事務局

キャリア教育の一環で、昨年度で 11 年目を迎えた。職場体験とは別に中学生ボランティアの方の受け入れを始めた経緯があるが、ボランティアという性質上積極性に欠けることもあった。また、中学生ボランティアは縄文の案内をしてもらうため、研修を 3 回受けてもらっている。その後、本番として 5 回の中から 3 回以上としている。しかし、中学生もなかなか忙しくなってきたため、研修も含めてなかなか日が取れないことがある。習い事や部活の地域移行等が絡んできて難しくなってきたことも踏まえ、あり方を検討していく必要があると考えている。

委員長

中学生も忙しい。我々の時代と違い環境の変化に合わせて、中学生がボランティアをやることの是非、そういう忙しい中学生という環境の変化に合わせたボランティアの募り方、例えば、高校進学に有利とか。博物館は、県民からの信頼の高いところであるから、検討されていかがか。

委員 D

高校生ボランティアはあるのか。

事務局

高校生以上は通常のボランティアとして受け付けている。

委員 B

ボランティア参加者の固定化とあるが、年齢層はどうなっているか。総勢で何人いるか。

事務局

60代、70代がおよそ半分、40～50代が4割、10代から20代が1割くらい。
令和7年度は全員で38名。

委員 B

男女比はどうか。

事務局

ほぼ一緒。若干女性の方が多い。

館長

近くの大学にターゲットを絞っていろいろな勧誘活動も含めてやってみたいと思う。若い人はいろんな技術が逆にある。今までと違った分野でのボランティア活動が展開できると思っている。

委員長

ボランティアをすると、学校がよくプラススコアになる等あるので、そのようなことも検討してほしい。

委員B

大学生という話が出ているが、造形大だとデザインや広報という部分でスキルのある学生さんが多いと思う。その大学生との連携はこれまではあったか。

事務局

造形大との連携は今進行中ではある。

副館長

ボランティアというよりは授業の中で当館とタイアップしたものを考えており、学生主導で、一番お願いしたいのはSNSでの発信。学生は得意であるので。先回も若い人はYouTubeとTikTokだという話を皆様からいただいているので、学生たちに作ってもらいたいと考えている。授業の中でできないかといろいろ検討しているところ。

委員長

参加者満足度或いはボランティア、伸び率ベースと数値目標を出しているということ
で当委員会としても評価できるでよいか。

(了承)

委員長

続いて連携について説明をお願いしたい。

事務局

まず(1)地域史研究ネットワークの事業ですが、取組実績4つ目の黒ポチについて、今年1月から「れきはく通信」を開始している。地域団体活動への参画では、令和5年度は10件だったが、増えたところもあり実績15件となった。以上のことから評価できるとした。

委員長

ただいま説明があったが質問等はないか。

委員A

地域団体が増えた内容というのは、どこが増えたのか。

副館長

増えたものは山通コミセン、関原商工会ミニツアー、真明座。

学芸課長

昨年度、実はもれがあった。本来やっているが、あげ損になっており、実際には実は去年も15件ぐらいあった。それをきちんと精査したというふうにご理解いただきたい。

副館長

今年からっていうのもある。関原商工会さんとの連携、真明座もそうである。

委員D

具体的に山通コミセンとは何をしたのか。

学芸課長

その地域に史跡があり、史跡の整備をしていて、現状畑地である。公民館活動として、地元の人たちがこの遺跡をみんなに知ってもらうにはどういう活動したらいいのかという相談があり、アドバイスや周知するための活動としての看板づくりや遺跡を歩く活動の講師等で協力した。

委員D

その前の関原商工会のツアーは具体的にどういうものか。

副館長

関原地区商工会で、地区のいろんなところを回るツアーを組んで、当館も含めていろいろ回るという企画をした。

委員長

まち歩きですかね。

副館長

参加者は地元だけでなく、長岡市民全体に募集したと思う。市全体の中で、関原地区にはこんなところであるということをしてPRするイベントを組んだ。

委員A

「れきはく通信」は大変ではないのか。

学芸課長

そんな大変ではない。刊行物にするとなると大変だが、ワードプロセッサからPDF化して発行するため、過重にならないように設定して、月に2件から多いときでも3、4件ぐらいで、800字程度のエッセイになるため大丈夫である。

館長

これは人気あります。

委員D

どの程度読まれているかわかるのか。

学芸課長

地域史研究ネットワークの参画者、登録者に提供している。

館長

あとはホームページに掲載し、一般の方が見られるようにしてある。

委員D

いつから始めたか。

学芸課長

今年の1月から。昨年の後半に検討し、この程度なら継続的にできると見定める作業を行い始めた。研究者であればこぼれ話は幾らでもあるので、継続的にはやりやすい、情報発信になるかなと思う。

委員長

こちらも数値的には良好な数値を示しているので、本委員会の評価も評価できるとしたいがよいか。

(了承)

委員長

次は情報発信についてお願いしたい。

事務局

評価指標について、令和6年度は新聞、雑誌、テレビともに大きく減っており、目標には届いていない。理由は幾つかあるため、順に説明をしたい。

まず、新聞が、掲載回数が減ってきた主な原因は、もともと広告を出すための予算がないところがあるが、プラスして、例えば新潟日報の「Otona+」が休刊となり、デジタルに移行したということで、令和4年度で21回掲載されたものが、紙ベースではなくなったため0回となった。その他、廃刊或いはデジタル版に移行となったものがあることが原因である。

また、FM長岡の放送について、今までは長岡地域振興局の放送に合わせて放送をお願いしていたが、地域振興局が撤退したということが原因の1つである。以上のことから実績が目標を上回らないということとなっている。評価指標として現状に見合った数にさせていただきたいと考える。

2番目のインターネットについても、目標から実績が下回っている。理由として、グーグルのカウントの方法が変わった。令和5年7月よりユニバーサルアナリティクスUAというものからアナリティクス4というものに変更になった。それにより、カウント数が3割減でカウントされるようになった。3割減となったことから、本来は7万のところ、少し頑張り8万3000までなったと考えている。公式のSNSであるX、Facebook、Instagramはホームページの方から、飛べるようになっている。ご覧のような、フォロワー数になっている。

評価指標の変更のところをご覧いただきたいが、先ほどの新聞・雑誌・テレビ等報道された件数の方は自助努力ではなかなか難しい、デジタル移行という話をさせていただいたが、SNSが広報では非常に大きな媒体となっており、SNSのフォロワー数とその代わりの指標となると考え、挙げさせていただきたい。

ちなみに、令和3年度が、X、それからFacebook、Instagram合計で1万6520のフォロワー数、令和4年度が1万7293、令和5年度が1万7944件で、およそ600から800人ずつぐらい増えてきている。そのことを考え、令和9年度のSNSフォロワー数がこのまま600から800で増加をしていくと2万人に到達するというところで、新しい評価指標として提案をさせていただきたい。

委員長

先ほどと同様、これも同じことが言える。確かに媒体が減ったことは事実である。だから数値を下げますというのは、他のやり方、例えばSNSフォロワー数アップ、これはまだいいが、質を変えることになるから。ただ同じ質は変えずに量は下げますというと、別の方からすれば、評価指標として何なのか、どういうつもりで評価指標とつき合っているのというそしりを免れない。もし変えるのであれば、質を変える。例えばデジタルメディアが急速に普及してきた。デジタルメディアを踏まえた〇〇というやり方で、マスメディアに乗っかる出番の増やし方、そのような観点からやれば質を変えるというようになる。下の方はホームページ一本がホームページ&SNSフォロワー数アップにしたので、これは若干質の変化と言える。でも上の方は数値を単に減らすことだけであり、いかななものかと思う。

委員B

今ほど説明の中で責任は非常に感じる。「Otona+」の休刊であるとか。新聞とか雑誌は紙ベースのものと考えていいか。

事務局

はい。紙ベースのものである。

委員B

デジタル版を加えるとどの程度変わるのか。

事務局

広報担当がカウントするにあたり、当然全部の新聞をカウントするのは厳しいので、現在とっている新潟日報と長岡新聞をボランティアの方をお願いしてスクラップして、その数をカウントしている。そこにデジタルが入ってくるとなると、カウントが非常に難しくなり、ダブルカウントになってしまうこともあると考える。デジタル版も今、広がってきているので。

委員長

それこそAIを使えないか。人間の手でどれだけ乗っているかを数えるのは人海戦術というか先の大戦のような感じがする。AIを使ったカウントの仕方というものではないかなど。こういうときに知恵が思い浮かばないときは、例えば他の県の歴史博物館はどういうふうなことやっているか、あるいは近代美術館はどうしているかを聞いて、従前の新聞、雑誌テレビ、紙媒体のフォロー数把握と同様のもので、このように質を変えることができるようなものがあればお願いしたい。

委員A

新聞、雑誌、テレビは大変難しい問題があると聞いていて思う。掲載されたという受け身の形になってしまうので、相手の方が変更になる、形が変わってしまうと難しいと思う。今後、いつかまた大きく変更するときに、その辺も含めて考えて指標を設定する必要があると思う。その点を考えてもらえれば。今すぐに変えるのは難しいと思うが。

委員長

自己評価は評価できるとなっているが、確かに数値が置かれている環境は厳しいということだが、実績が目標に達しなかったということも踏まえると。

委員D

実績が目標に到達してないところで、評価できるというのは。

委員長

評価できるというのは言いづらいと思う。一つ下げてやや評価できるでよいか。

(了承)

委員長

続いて管理運営について説明をお願いしたい。

経営企画課長

一番上の評価指標全体収支比率、令和6年度実績3.9%、令和5年度が5.3%。目標が5%ということで今回は至らなかったが、ここは冒頭、館長が申し上げたとおり、令和6年7月から、企画展のチケットを購入すると、常設展も見られるようになった。今まで常設展を見るためには常設展のチケットを買い、企画展を見るときは企画展のチケットを買うといったところを、企画展のチケットがあれば、常設展が見られるというふうに変わった。常設展のチケットだけを買う人が少なくなったので、常設のチケットの収入が少なくなったということをご理解いただきたい。

しかしながら実際に企画展を見た方が、常設展を見るという流れにはなっているので、博物館の目的として、より多くの方に見ていただくという観点から、見ていただく方が増えていく仕組みになってきた。率は減っているが、博物館としては多くの方に触れていただきたいというふうに理解していただきたい。

支出に関して、令和6年度は大きな工事もなく予算の削減というところで分母である支出についても締まっているので、収入も減っているが支出も減っているということで3.9%、令和4年度と同様の数字に落ち着いている。

それから、評価指標項目の達成率ですが、この活動評価表を通じて設定した20項目の指標に対して目標を達成している率ということで、実績75%と報告させていただく。

委員長

管理運営については当委員会の評価は行わないところであるが、質問はあるか。

館長

全体出資比率で補足させていただくと、令和 5 年はマスコミとの委員会組織で開催した上杉景勝展があり、入場者数が 1 万 2000 人ぐらいあった。この影響が一番大きいと考える。

委員長

最後は総括について説明をお願いしたい。

副館長

取組実績の指標について、利用者数の目標は増加させるとなっているが、利用者総数、観覧者数とも令和 5 年度に比べると約 1 万前後減少しているという状況。昨年 6 月の規則改正により、企画展観覧券を購入した場合、常設の観覧料が免除されることになった。これに伴い、欄外に書いてあるように観覧者数の集計方法が変わったところが影響している。6 月より前は、例えば 1 人の方が企画展を見て、さらに企画展を見たついでに常設も見ようとする別で常設展のチケットを買わなければいけない。この場合、観覧者数としては 1 人だが、チケットを 2 枚買われたということで 2 名というカウントになる。2 ページ目の分析の表を見ていただきたい。その中の一番上常設展について、令和 5 年度は 3 万 4000 人、6 年度は 2 万 6000 人で約 8000 人減少している。ただ、下の欄の入場者数を見ていただくと、5 年度から 6 年度に減っている数は約 3500 人となっている。何が違うのかというと、入場者数は常設展に実際に入った数を数えている。上の観覧者数は常設展で言えば、6 月以降には企画展の観覧券を買えば常設展は免除されていて見られるという形になり、カウントは 1 となる。入場者数は実際に入った人をそれぞれ数えているので、チケットを買ってお金を払って入った人プラス企画展のチケットで入った人もカウントされていて、約 3500 となる。確かに減ってはいるが、観覧者数ほどの減少はない。企画展の観覧者数で言えば、令和 5 年が 1 万 5780 人、6 年が 1 万 3389 人で 2400 人ぐらい減になっているが、景勝展が非常に好評だったためと言える。上杉を取り扱っていると非常に観覧者が多くなる。戦国や徳川の時も。そういう企画をやると実際伸びる。5 年度景勝展で伸びた比較で 6 年度は少なくなったというのが実態と考える。

分析の(2)で学校関係団体者数については、全体では学校関係の来館者数はほぼ増減がない状況だが、県内は 351 人減って、県外は 373 人増えている。前回の委員会で説明したとおり、県外、特に足立区や文京区が非常によく利用していただいている。満足度の指標は、維持向上させるとなっているが、前年度より高い数値である。

課題について、近年特に大きな課題となっているのが施設・設備の老朽化への対応である。建設から 25 年が経過しており、屋根や内外装、それから機械設備関係が老朽化してきている。実際、屋根の部材が落ちてきたことがあったり、壁も普段わからないが、暴風雨のときに、風向きにもよるが壁の隙間から雨が伝わってきたりする等経年劣化している。特に懸念されるのが機械設備である。空調関係を中心とする機械設備関係、これもすでに 25 年経過しているということで、耐用年数を過ぎていているものも多く、いつ故障して

もおかしくない状況である。こういったものを計画的に更新していき、修繕を行う必要がある。そのための調査をしなければいけないということで、予算要望しているが、県財政が厳しいと言うのはもちろんだが、文化課が所管する文化施設について例えば近代美術館は当館よりももっと古く老朽化していて、非常に状況が悪い。同様に古い施設が数多くあり、当館の優先順位が下がってしまう。今、優先順位が高いところから予算をつけてやってきているという状況もあり、当館については後回しされているという部分がある。空調関係が古くなると突然不具合が発生して壊れてしまうことがある。今年度も実際あったが、予算取りがされてないので、他を直すために確保した予算をやむを得ず使わざるを得ない。特に空調は、一番最優先で、冷房がきかないとか、湿度調整のこともあり、そういった部分は早急に直す必要がある。そうすると、本来やろうと思っていたものができない。県では壊れたものがあれば修繕費の予算をつけていただけるが、壊れていないと予算がつかないため、突然壊れると予算がないという状況になり、四苦八苦している。だんだん年数が経過してくると、ますますそういう事態が出てくるということもあり、一刻も早く全体を計画的にやりたいという希望は常に文化課にお願いしているが、なかなか難しい状況であり課題である。

自己評価は、全体を見ると非常に館として頑張っているものもたくさんある。例えば、調査研究も外部研究費をたくさん取っているとかいろいろあるが、ただ実績としてやはり前年度より利用者数が減っているというところから、やや評価できるということになる。

委員 B

先ほど県内の学校利用者数という指標の話があったが、県外利用者も含めた考え方もある。

館長

そこも検討していた。

委員長

副館長から話があった老朽化について、お金がない、県の財政状況は厳しい。私も隣の県の県庁職員をやっていたが、財政状況が厳しいというのは思考停止ワード。県庁職員の頭の回転を止める言葉である。私も財政課長やっていたので、財政上厳しいと言うと皆思考が止まる。特に文化課の皆さんは止めてはいけない。もし、文化財が壊れたときに、追及されるのは花角知事。財政課長は責任を取らない。あとは文化課長が責任を負わされる。文化財は宝物を扱っている。1度壊れたら、必ず花角知事或いは文化課長がボコボコにされるということは釘をさしてほしい。

館長

知事は問題意識を非常にお持ちで、視察にも来ている。近美等も回り、長期的に計画立てないといけないと言っている。そこから計画のすり合わせが始まったが、予算面は白紙の状態である。

文化課課長補佐

文化振興基本計画にも載っているが、71 ページ以降に、文化課が持っている施設があり、一番最初に歴博が載っている。歴博が25年超、近美が32年、万代島が22年くらい。県民会館に至っては50年超、自然科学館も同じように50年くらいである。今、これらの施設のいろいろなところで不備が出ていて、それをいかにして直していくかというところを我々も真剣に考えている。まずは全体像をきちんと示していこう、必要なものを要求していこうということでやっている。いかんせん予算になるので、優先順位が出てくるのは一方であるといえる。当然ながら財政課に、要求するのもあるし、我々の中で財政課だけ、県の予算だけを頼っていていいのかというところで、クラウドファンディング等も含めて、やれることをいろいろ知恵を出している。みんな考えていくしかないと考えている。

委員長

自己評価もやや評価できるとなっているが、当委員会における評価もやや評価できるとよいか

(了承)

最後、何かご発言等ないか。特段なければ、この議事の方は以上とさせていただきます。

事務局

今後の日程として、この後、それぞれの分担を持ち合い、第2回の検討会を7月頃行う。8月中に観光文化スポーツ部長に報告という形で持っていきたいと考えている。日程は、改めて調整させていただく。

委員B

今ほど指標のペンディングになった部分は改めて検討し各委員に送る感じなのか。

次回は、原稿を持ち寄ってみたいと感じだったと思う。

館長

ご指示いただいた修正版はお持ちした方がよい。それが7年度目標となり、結果は11月12月に中間でやる、その時は目標が変わってないといけないので。

委員B

それについて今回は特に関係はないということ。

館長

その方が理解が進むと考える。

委員長

中間のときに、検討会ではなく評価委員会で文化課も出席したところで、議事として変更決定したほうがいい。

事務局

7年度第1回目の委員会の時に議論を踏まえて改めて提案させていただく。

委員D

分担した原稿締切はいつまでに送るのか。

委員長

今日が5月29日で1ヶ月は欲しい。6月いっぱいということで、実際には検討会を7月にやるということで調整する。

事務局

6月中の提出で、7月に検討会ということをお願いしたい。

委員B

書式はあったのか。

委員D

書式はなく、ワードでただ打って送るのでよい。

事務局

副館長のメールアドレスに送付をお願いしたい。日程調整のメールを送るので、それに返信していただきたい。

新潟県立歴史博物館評価委員会報告書

発行日： 令和7年8月27日

編集発行： 新潟県立歴史博物館評価委員会